ユーザーガイド

AWS Billing Conductor

Copyright © 2026 Amazon Web Services, Inc. and/or its affiliates. All rights reserved.

AWS Billing Conductor: ユーザーガイド

Copyright © 2026 Amazon Web Services, Inc. and/or its affiliates. All rights reserved.

Amazon の商標およびトレードドレスは Amazon 以外の製品およびサービスに使用することはできません。また、お客様に誤解を与える可能性がある形式で、または Amazon の信用を損なう形式で使用することもできません。Amazon が所有していないその他のすべての商標は Amazon との提携、関連、支援関係の有無にかかわらず、それら該当する所有者の資産です。

Table of Contents

AWS Billing Conductor とは 1
にサインアップする AWS アカウント 2
AWS Billing Conductor の機能 3
AWS Billing Conductor の料金 4
関連サービス 4
プロフォーマデータとは何ですか? 7
用語集 7
見積り請求データについて 8
見積り請求データと標準 AWS 請求データの違いは何ですか? 8
請求グループの見積りドメインでの料金の設定 9
見積り請求データと標準 AWS 請求書は誰が確認できますか? 10
見積りドメインでの無料利用枠の適用方法 10
標準請求コストから見積り AWS 請求コストを導き出せますか? 11
リザーブドインスタンスと Savings Plans は、見積りドメインにどのように割り当てられますか? 11
請求グループは、リザーブドインスタンスと Savings Plans の割り当て方法に影響しますか? 12
ダッシュボードについて 13
主要業績評価指標 13
請求金額あたりの上位 5 つの請求グループの表示 14
請求グループ 15
請求グループの作成 16
Billing Conductor をスタンドアロンサービスとして使用する 16
Billing Conductor と請求転送の使用 18
請求グループの詳細の表示 22
請求グループテーブルの表示 22
請求グループ別の見積り設定の表示 22
リンクされたアカウントによる見積り設定の表示 23
カスタム価格ディメンションによる請求詳細の表示 23
請求グループによる AWS CUR の設定 24
AWS Billing Conductor CUR AWS と標準 CUR AWS の違いを理解する 25
料金プランのルール 28
料金設定ルールの作成 29
料金ルールテーブルの表示 31

料金プラン 32
ディストリビューションパートナーの 1 レベル転送の例 33
ディストリビューションパートナーの 2 レベルの転送例 33
カスタマーマネージド料金プラン 34
AWS マネージド料金プランを選択する 35
料金プランの作成 35
料金プランテーブルの表示 35
カスタム明細項目 37
固定料金カスタム明細項目の作成 37
割合料金カスタム明細項目の作成 38
カスタム明細項目テーブルの表示 40
カスタム明細項目の編集 40
カスタム明細項目の削除 41
マージンの分析 42
マージンの概要を使用して総マージンを表示する 42
請求グループのマージンの概要の表示 42
マージン分析テーブルについて 43
マージンの詳細 AWS のサービス を使用してマージンを表示する 43
サービス別の請求グループのマージンの表示 43
マージンの傾向グラフを理解する 44
マージン分析テーブルについて 44
Billing and Cost Management での見積りデータの表示 45
請求書ページで見積りコストを表示する 23
Cost Explorer での見積りコストの分析の実行 46
Billing Conductor をスタンドアロンサービスとして使用する 46
Billing Conductor と請求転送の使用 47
Savings Plans、予約カバレッジ、使用率レポートの分析 47
請求グループ設定と Savings Plans 共有設定の影響を理解する 49
Savings Plans と予約のインベントリを表示する 50
での見積りデータの表示 AWS Budgets 50
AWS のサービス 見積りベースの請求ビューコストをサポートする 51
関連情報 53
概念とベストプラクティス 54
AWS Billing Conductor へのアクセスの制御 54
プライマリアカウントの参加日と退出日が見積り請求にどのように影響するかを理解する 54
AWS Billing Conductor の更新頻度について 55

AWS Billing Conductor の計算ロジックについて 55
Billing Conductor と 2 レベルの請求転送 57
セキュリティ 61
データ保護 62
ID とアクセス管理 63
オーディエンス 63
アイデンティティを使用した認証 63
ポリシーを使用したアクセス管理 64
が IAM と AWS Billing Conductor 連携する方法 66
アイデンティティベースのポリシーの例 73
サービスにリンクされたロールの使用 90
Billing Conductor のサービスにリンクされたロールのアクセス許可 90
Billing Conductor のサービスにリンクされたロールの作成 91
Billing Conductor のサービスにリンクされたロールの編集 91
Billing Conductor のサービスにリンクされたロールの削除 91
Billing Conductor サービスにリンクされたロールでサポートされているリージョン 92
ログ記録とモニタリング 92
AWS コストと使用状況レポート 92
CloudTrail ログ 92
での Amazon EventBridge の使用 AWS Billing Conductor 99
AWS User Notifications での の使用 AWS Billing Conductor 101
コンプライアンス検証 104
耐障害性 104
インフラストラクチャセキュリティ 105
AWS PrivateLink 105
クォータと制限 108
クォータ 108
制限事項 109
ドキュメント履歴 111
..... cxv

AWS Billing Conductor とは

AWS Billing Conductor は、 AWS チャネルパートナー (パートナー) およびチャージバック要件がある組織向けのカスタム請求サービスです。パートナーの場合、チャージバックは顧客からの支払いを受けるための前提条件です。直接の顧客の場合、ショーバックまたはチャージバックアクティビティにより、ビジネスは特定のチーム、ビジネスユニット、子会社、関連会社のコストを正しい内部予算または損益 (P&L) ステートメントに配分します。

これらのアクティビティを達成するために、Billing Conductor を使用すると、ユーザーは 2 番目のバージョンのコストを作成して、顧客またはアカウント所有者と共有できます。クラウドコストデータの 2 番目のバージョンは、Billing Conductor 設定 (料金プラン、料金ルール、カスタム明細項目) から取得されます。

このデータは見積りコストデータと呼ばれ、請求グループのアカウントのコストを表します。これらの Billing Conductor リソースには、スタンドアロンサービスとして Billing Conductor を使用する場合の AWS Organizations (標準請求グループ) のアカウントのサブセット、または請求転送で Billing Conductor を使用する場合の AWS Organizations (請求転送請求グループ) 全体を含めることができます。

見積りデータは、請求対象コストデータ (標準請求対象) とは別のドメイン (見積り) に存在します。請求可能なコストデータには決定 AWSされた料金が使用されますが、見積りデータは請求ビューからアクセスできます。

アカウントまたは請求グループのプライマリ AWS Organizations 請求ビューには、見積りデータのみが表示されます。Billing Conductor の料金リソースを設定するアカウントは、アカウントまたは請求グループに表示される見積りデータを示す AWS Organizations 請求ビューにアクセスできます。

> **Note**
>
> お客様は、請求対象コスト (AWS 請求書と一致) と見積りコスト (Billing Conductor 設定と一致) のコスト差を 1 か月間観察します。ただし、請求書 AWS が発行されると、使用量の値は毎月月末に一致します。

見積りコストを定義すると、お客様は次のいずれかのユースケースに合わせてコストを均一にモデル化できます。

1. カスタマーアグリーメント。 の外部で交渉されたパートナーユースケースにすることができます。 AWS

2. 内部会計プラクティス、多くの場合組織固有のユースケース

Billing Conductor の設定は、 AWS または 請求設定 (リザーブドインスタンスや Savings Plans などのクレジットやコミットメントベースの割引の共有など) からの顧客の既存の請求書には影響しません。

見積りコストは、スタンドアロンの管理アカウントまたは複数の請求を管理する AWS Organizations 請求書転送アカウント AWS Organizations から分析できます。

- Billing Conductor 内のマージン (同じアカウントセットの見積りコストと請求対象コストの差) を分析する
- を使用して、請求グループビューまたは請求転送ビューを使用してコストデータを分析します。
- 請求書ページのBilling Groupビューまたは`Billing Transfer`ビューを使用してコストデータを分析する
- ビューと`Billing Group`ビューごとに を作成する `Billing Transfer`
- および ビューを反映する予約レポートと Savings Plans カバレッジ`Billing Group`レポートと使用率レポート`Billing Transfer`を表示する

Billing Conductor が管理するアカウントと は、、コストと使用状況レポート AWS Cost Explorer、請求ダッシュボード、請求詳細ページの見積りコストを分析 AWS Organizations できます。マネージドアカウントと AWS Organizations 請求グループの は、予算を作成して見積り支出をモニタリングし、希望する見積り支出の上限を超えた場合、または超えると予測される場合にアラートを受け取ることができます。

Billing Conductor コンソールまたは Billing Conductor API を使用して、請求グループ、料金プラン、料金ルール、カスタム明細項目を設定できます。

AWS Billing Conductor のサービスクォータの詳細については、「」を参照してくださいクォータと制限。請求転送の詳細については、「外部アカウントへの請求管理の転送」を参照してください。

にサインアップする AWS アカウント

の使用を開始するには AWS、 が必要です AWS アカウント。サインアップするには 2 つの方法があります AWS。アカウント設定とコンテンツの保存場所を完全に制御する場合、または HIPAA や FedRAMP などの規制対象のワークロードがある場合は、「Sign up for AWS (advanced)」を使用します。新規ユーザーで、既に所有しているログインを使用して にサインイン AWS し、選択した で

事前設定されたデフォルトを使用して AWS 環境を作成する場合はAWS リージョン、サインアップ AWSを使用します。

AWS Billing Conductor の機能

AWS Billing Conductor の機能を使用して、以下を実行できます。

標準請求グループのアカウントをグループ化する

Billing Conductor 請求グループにアカウントを整理して、ビジネス財務組織を反映する AWS Organizations 構造をモデル化する見積りコストの集計を表示します。

請求転送請求グループ AWS Organizations に割り当てる

請求転送を使用する場合、Billing Conductor を使用して、組織全体 (管理アカウントを含む) が見積りコストデータのみを表示 AWS Organizations できるように、 と one-to-one でマッピングする請求グループを作成できます。

2 レベル転送の請求グループを自動的に作成する

2 レベルの転送では、間接請求転送の自動請求グループ作成設定を有効にして、 AWS Billing Conductor が請求をお客様のアカウントに間接的に転送する新しいアカウントごとに請求グループを自動的に作成できるようにします。詳細については、「2 レベル転送の請求グループを自動的に作成する」を参照してください。

カスタム料金

グローバルまたは特定のマークアップまたは割引を設定し、無料利用枠へのアクセスを制御します。

料金とクレジット

1 回限りまたは定期的な定額またはパーセンテージベースの料金またはクレジットを請求グループに追加します。

プロフォーマ分析

請求コンソールの料金設定に基づいてコストを分析します。請求グループ AWS Organizations 内のアカウントと は、見積りコストのカスタムレポートを視覚化、予測、作成できます AWS Cost Explorer。請求グループ AWS Organizations 内のアカウント および は、見積りコストを反映する予約および Savings Plans のカバレッジと使用率レポートを表示できます。Billing Conductor をスタンドアロンサービスとして使用する場合は、請求グループごとにプライマリアカウントを指定します。このプライマリアカウントには、請求グループ内のアカウントによって発生したす

べてのコストのクロスアカウントビューがありますが、非プライマリアカウントには独自のコストのみが表示されます。Billing Conductor ユーザーが請求転送にオプトインする場合、プライマリアカウントは、請求を転送 AWS Organizations している の管理アカウント (請求元アカウント) にデフォルトで設定されます。

報告

請求グループごとにコストと使用状況レポートを設定します。

レート分析

適用されたレートと実際の AWS レートを請求グループのマージンレポートと比較します。

Budget

アカウントと AWS Organizations 請求グループの は、見積り支出をモニタリングする予算を作成し、希望する見積り支出の上限を超えた場合、または超えると予測される場合にアラートを受け取ることができます。

Email Notification

AWS Billing Conductor の設定が変更されると、E メール通知を受け取ることがあります。たとえば、プライマリアカウントが退出した場合や AWS Organizations、新しいリンクされたアカウントが参加 AWS Organizations して請求グループに自動的に関連付けられた場合などです。

AWS Billing Conductor の料金

AWS Billing Conductor の料金の詳細については、「 の料金」を参照してください。Billing Conductor は、転送請求グループのすべての請求転送ユーザーに対して無料です。標準の請求グループには料金がかかります。

関連サービス

「AWS 請求」

Billing AWS は、学生やスタートアップ企業から大企業まで、すべての AWS お客様向けのポータルです。コンソールを使用して、 AWS アカウントで実行されているリソースの確認、請求設定の管理、支払いに必要な請求アーティファクトへのアクセスを行うことができます AWS。 AWS 請求コンソールでは、アカウントの支出の概要も説明されており、 AWS コスト管理製品に登録するためのエントリポイントとして機能します。

詳細については、「AWS Billing ユーザーガイド」を参照してください。

AWS Cost Explorer

Cost Explorer インターフェイスを使用して、時間の経過に伴う AWS コストと使用状況を視覚化、理解、管理できます。コストと使用状況データを分析するカスタムレポートを作成して、すぐに使用を開始しましょう。データを概要レベルで分析するか (例えば、すべてのアカウントの合計コストと使用量)、コストと使用量のデータをさらに詳しく分析して、傾向を特定し、コスト要因を特定して、異常を検出します。

詳細については、以下の各トピックを参照してください。

- での見積りコストのアドホック分析の実行 AWS Cost Explorer
- 「AWS Cost Management ユーザーガイド」の「AWS Cost Explorer によるコストの分析」

AWS コストと使用状況レポート

AWS コストと使用状況レポート (AWS CUR) には、利用可能な最も包括的なコストと使用状況データのセットが含まれています。コストと使用状況レポートを使用して、所有している Amazon Simple Storage Service (Amazon S3) バケットに AWS 請求レポートを公開できます。コストを時間または日単位、製品または製品リソース別、またはお客様が定義したタグ別に分類したレポートを受け取ることができます。

AWS は、バケット内のレポートをカンマ区切り値 (CSV) または Apache Parquet 形式で 1 日 1 回更新します。Microsoft Excel や Apache OpenOffice Calc などのスプレッドシートソフトウェアを使用してレポートを表示できます。Amazon S3 または Amazon Athena API を使用して、アプリケーションからアクセスすることもできます。

AWS コストと使用状況レポートは、 AWS 使用状況を追跡し、アカウントに関連する推定請求額を提供します。各レポートには、 AWS アカウントで使用する AWS 製品、使用タイプ、オペレーションの一意の組み合わせごとに明細項目が含まれます。

AWS Identity and Access Management (IAM)

AWS Billing Conductor サービスは AWS Identity and Access Management (IAM) と統合されています。Billing AWS Conductor で IAM を使用すると、アカウントで作業する他のユーザーが、ジョブを完了するために必要な数だけアクセスできるようになります。

また、IAM を使用して、すべての AWS リソースへのアクセスを制御します。これには請求情報が含まれますが、それに限定されるものではありません。 AWS アカウントの構造を設定する前に、IAM の基本概念とベストプラクティスを理解しておくことが重要です。

IAM の操作方法の詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「IAM とは」および「IAM でのセキュリティのベストプラクティス」を参照してください。

AWS Organizations (一括請求)

AWS の製品とサービスは、小規模なスタートアップから企業まで、あらゆる規模の企業に対応できます。会社が大規模な場合、または成長が見込まれる場合、会社の構造を反映する複数の AWS アカウントの設定が必要になることがあります。例えば、会社全体に 1 つのアカウントと各従業員にアカウントを持ったり、各従業員に IAM ユーザーを持つ会社全体のアカウントを持ったりすることができます。会社全体のアカウント、会社内の各部門またはチームのアカウント、各従業員のアカウントを持つことができます。

複数のアカウントを作成する場合は、 AWS Organizations の一括請求機能を使用し、すべてのメンバーアカウントを 1 つの管理アカウントにまとめて、受け取る請求書を 1 つにすることができます。詳細については、「AWS Billing ユーザーガイド」の「Organizations の一括請求 (コンソリデーティッドビリング)」を参照してください。

請求転送

請求転送は、請求と財務管理をセキュリティとガバナンスの管理と切り離します。これにより、単一の AWS Organizations が複数の組織全体のコストデータと AWS 請求書に一元的にアクセスできます。

セキュリティ管理の自律性を維持しながら請求を一元化するために、請求転送を使用すると、管理アカウントは、一括請求を管理および支払う外部管理アカウントを指定できます。請求転送を設定するには、外部アカウント (請求転送アカウント) が管理アカウント (請求ソースアカウント) に請求転送の招待を送信します。招待が承諾されると、外部アカウントは請求書転送アカウントになり、招待で指定された日付から、請求書ソースアカウントの一括請求書の支払いを管理します。

詳細については、「外部アカウントへの請求管理の移管」を参照してください。

請求ビュー

請求ビューは、 AWS 環境内のコスト管理データへのアクセスを管理および制御するのに役立ちます。請求ビューでは、コスト管理データは AWS リソースとして表されます。リソースベースのポリシーを使用すると、 AWS Billing and Cost Management ツールを使用するときにアカウントがアクセスできるデータを設定できます。

各請求ビューは一意の Amazon リソースネーム (ARN) によって識別され、アイデンティティベースのポリシーで参照して、その請求ビューに含まれるコスト管理データに対して特定の IAM アクションを実行できます。

詳細については、「Billing View によるコスト管理データアクセスの制御」を参照してください。

見積り請求データとは何ですか?

見積り請求データは、請求データの代替バージョンです。このバージョンは、カスタマイズされたショーバックまたはチャージバックの目的で、 AWS Organizations (標準請求グループ) または組織全体 (請求転送請求グループ) のアカウントのサブセットに適用される Billing Conductor リソース (料金プラン、料金ルール、カスタム明細項目) を介した設定の出力です。

> **Important**
>
> 見積りデータは AWS 請求書に表示されるデータとは異なり、 AWS 毎月の実際の料金を反映していません。

このセクションでは、 AWS Billing Conductor によって生成された見積り請求書と標準 AWS 請求書の違いを明確にします。請求グループを作成すると、 AWS Billing Conductor の計算は、カスタム料金設定を使用して、その請求グループの見積り請求を生成します。見積り請求書と標準 AWS 請求書にはいくつかの根本的な違いがあります。

> **Note**
>
> 見積り請求データは、標準 AWS 請求書には影響しません。お客様またはお客様の組織の請求方法は変更されません AWS。

用語集

このセクションでは、サービスを効果的に使用できるように、 AWS Billing Conductor 全体で使用されている主要な用語を定義します。

見積り請求書

各請求グループに対して生成される請求データ。請求データは、請求グループタイプごとに生成されます。Billing Conductor をスタンドアロンサービスとして使用するときに設定された標準請求グループと、Billing Conductor で請求転送を使用するときに設定された請求転送請求グループです。 AWS Billing Conductor の計算は、請求グループアカウントによって蓄積された使用量を取得し、請求グループの料金プランで定義されたカスタム料金を適用します。その後、請求データは統合されたサービスにダウンストリームで提供されます。アカウントまたは請求グループ

AWS Organizations 内の がこれらのサービスのいずれかを通じてコストを表示すると、標準請求データではなく見積り AWS 請求データが表示されます。

標準 AWS 請求書/請求対象 AWS 請求書

支払うべき実際のコストを表す標準 AWS 請求書 AWS。

ドメイン

見積り請求データセットと標準 AWS 請求データセットは、別々の請求ドメインで互いに分離されます。見積りデータは見積りドメインに存在し、標準の請求データは請求対象ドメインに存在します。

Billable

によって生成 AWS され、請求書の計算の基礎として使用される AWS 請求出力。

リソース値

パーセンテージベースのカスタム明細項目を計算するために使用される入力。リソース値には、請求グループの蓄積コストと、請求期間中に特定の請求グループに関連付けられている固定カスタム明細項目を含めることができます。

見積り請求データについて

このセクションでは、見積り請求と標準請求の違いについて詳しく説明します。また、見積り請求データを使用する際のユースケースとベストプラクティスも提供します。

見積り請求データと標準 AWS 請求データの違いは何ですか?

各請求グループの見積り請求は、グループ内のアカウントが独自の一括請求ファミリーまたは組織であるかのように計算されます。その結果、見積りドメインのアカウント料金と標準の請求対象ドメインにはいくつかの重要な違いがあります。

- リザーブドインスタンスと Savings Plans は、請求グループアカウントによって購入された場合にのみ、請求グループ内で適用および共有されます。
- ボリューム階層化割引は、請求グループ内のアカウントによってのみ蓄積された使用量に基づいて計算されます。
- 無料利用枠の消費量は、請求グループ内のアカウントによってのみ蓄積された使用量に基づいて計算されます。

> **Note**
>
> - これらの違いは、Billing Conductor をスタンドアロンサービスとして使用する場合にのみ適用されます。Billing Conductor で請求転送を使用する場合、リザーブドインスタンス、Savings Plans、ボリューム割引は全体に基づいて計算されます AWS Organizations。この計算方法は、組織全体が請求グループに含まれるため使用されます。その結果、リザーブドインスタンスと Savings Plans の利点は、請求書を転送している組織に常に表示されます。
> - 無料利用枠クレジットは、請求転送ユーザーの見積り請求ではサポートされていません。

次の明細項目タイプは、見積りドメインから除外されます。

- クレジット (支払い者または連結アカウントレベルで引き換え可能)
- 無料利用枠クレジット
- サポートプランの料金 (エンタープライズ、ビジネス、デベロッパー)
- 非公開割引 (ソリューションプロバイダープログラムなど)
- 使用量ベースの割引 (バンドル割引など)
- 税金
- Refunds

これらの要因により、請求グループのマージンは月によって異なります。

> **Note**
>
> これらの要因に加えて、料金プランと適用されたカスタム明細項目に基づいて、請求グループのマージンが負の数になる可能性があります。

請求グループの見積りドメインでの料金の設定

料金設定ルールを作成して料金プランに関連付けることで、料金レートを調整できます。その後、その料金プランを請求グループに適用できます。マークアップまたは割引の料金ルールは、Billing Conductor の基本料金 (交渉割引、パートナープログラム割引、クレジット、無料利用枠クレジッ

ト、税金およびサポートプラン料金を除く料金) に対して計算されます。空の料金プランを請求グループに適用すると、料金レートはデフォルトで Billing Conductor の基本料金になります。

その後、カスタム明細項目を作成して、特定の請求グループアカウントの見積り請求にクレジットまたは料金を追加できます。

見積り請求データと標準 AWS 請求書は誰が確認できますか?

Billing Conductor をスタンドアロンサービスとして使用する場合、支払いアカウントはこれらの料金を支払う責任を負うため、常に標準 AWS 請求を表示できます AWS。また、請求ページ AWS Cost and Usage Report と Cost Explorer で各請求グループの見積り請求を表示することもできます。

Billing Conductor を請求転送で使用する場合、請求転送アカウントはこれらの料金を支払う責任を負うため、常に標準 AWS 請求を表示できます AWS。また、請求ページ、、および Cost Explorer で、各請求グループの見積り請求を表示することもできます。

詳細については、「請求グループの詳細の表示」および「請求グループ別のコストと使用状況レポートの設定」を参照してください。

請求グループに関連付けられているアカウントは、統合されたサービスを通じて請求の詳細を表示すると、見積りデータを表示できます。Billing Conductor をスタンドアロンサービスとして使用する場合、プライマリアカウントはクロスアカウントの可視性を持ち、請求グループ内のすべてのアカウントの見積り請求データを表示できます。請求グループの他のアカウントは、自分のアカウントの見積り請求データを表示できます。プロフォーマデータビューをサポートするサービスの完全なリストについては、「」を参照してくださいAWS のサービス 見積りベースの請求ビューコストをサポートする。

見積りドメインでの無料利用枠の適用方法

Billing Conductor をスタンドアロンサービスとして使用する場合、または請求転送を使用する場合、見積り請求での無料利用枠の動作に関する以下の考慮事項が適用されます。

12 か月間の無料利用枠

Billing Conductor は、見積り請求からこの無料利用枠を削除します。これは、特定の SKU の最初の有料オファーと交換されます。

常に無料利用枠

Billing Conductor は、見積り請求からこの無料利用枠を削除しません。この無料利用枠を無効にするには、請求グループの料金プランに階層化料金ルールを適用します。詳細については、料金プランのルールを参照してください。

無料トライアル

Billing Conductor は、見積りデータからほとんどの無料トライアルを削除します。ただし、既存の使用量をカバーできる後続の料金階層データがない場合、無料トライアルを削除することはできません。

2025 年 7 月以降にサインアップしたアカウントの無料利用枠

2025 年 7 月以降にサインアップしたアカウントは、アカウントプランを選択したときに無料利用枠クレジットを受け取ります。これらのクレジットは、デフォルトでは見積り請求に表示されません。これらのクレジットを見積り請求に含めるには、支払者アカウントまたは請求書転送アカウントが Billing Conductor のカスタム明細項目機能を使用する必要があります。

標準請求コストから見積り AWS 請求コストを導き出せますか?

標準のプライベートネゴシエート請求のコストに基づいて、請求グループの見積り AWS 請求で生成されたコストを照合することはできません。たとえば、標準 AWS 請求書で請求されるプライベート割引と税金を差し引いて、アカウントの見積りコストを導き出すことはできません。理由の詳細については、見積り請求データと標準 AWS 請求データの違いは何ですか?「」および「」を参照してください見積りドメインでの無料利用枠の適用方法。

リザーブドインスタンスと Savings Plans は、見積りドメインにどのように割り当てられますか?

このセクションは、Billing Conductor をスタンドアロンサービスとして使用する場合にのみ適用されます。請求転送を使用するユーザーの場合、リザーブドインスタンスと Savings Plans は、請求グループとその請求の AWS Organizations 転送の間に one-to-one のマッピングがあるため、標準請求ドメインとまったく同じように適用されます。

Billing Conductor をスタンドアロンサービスとして使用する場合、請求グループ外のアカウントがリザーブドインスタンス (RI) または Savings Plans を購入すると、請求グループの見積り請求から除外されます。請求グループ内のアカウントが RI または Savings Plans を購入する場合、その利点はまず、購入アカウント内で発生した対象となる使用量に適用されます。残りの利点は、グループ内の他のアカウントに配布されます。

支払いレベルで行われた RI および Savings Plans の割引共有設定は、見積りドメインには影響しません。請求グループのアカウントによって購入された RI と Savings Plans は、常に同じグループのアカウントと共有されます。その結果、RI と Savings Plans の割引配分は、見積りドメインと請求対象ドメインで異なる場合があります。

請求グループは、リザーブドインスタンスと Savings Plans の割り当て方法に影響しますか?

このセクションは、Billing Conductor をスタンドアロンサービスとして使用する場合にのみ適用されます。

Billing Conductor リソースとその結果の見積りデータは、実際の AWS 請求には影響しません。請求グループは、RIsと Savings Plans が見積りドメインにどのように適用されるかに影響を与える可能性がありますが、請求対象ドメインで同じ RIsと Savings Plans がどのように適用されるかには影響しません。

AWS Billing Conductor ダッシュボードについて

AWS Billing Conductor ダッシュボードには、カスタム料金ディメンションの影響を理解するのに役立つ主要なメトリクスの概要が表示されます。

主要業績評価指標

このセクションでは、 AWS Billing Conductor ダッシュボードで使用できる主要業績評価指標 (KPI) を定義します。KPI はすべて過去 1 か月のものです。アカウントを作成または に追加すると AWS Organizations、アカウントはこの KPI に蓄積されます。請求グループを削除すると、その請求グループのアカウントもこの KPI に計上されます。

- 請求額 – すべての請求グループによって蓄積された使用量の合計料金は、適用された料金プランで定義されたカスタムレートに基づきます。計算には、請求グループ外で購入したコミットメントベースの割引 (請求転送ユーザーには適用されません) 、非公開料金、または請求対象ドメインで消費されたクレジットは含まれません。コミットメントベースの割引の例には、リザーブドインスタンスと Savings Plans があります。
- AWS コスト – すべての請求グループによって蓄積された使用量に対する、 AWS 請求の推定請求額に基づくmonth-to-dateまでの合計請求額。請求対象ドメインで特典が適用された場合、計算には、請求グループ以外で購入したコミットメントベースの割引、非公開料金、従量制割引、クレジットが含まれます。コミットメントベースの割引の例には、リザーブドインスタンスと Savings Plans があります。

> **Note**
>
> 2 レベルの転送設定で請求転送を使用し、請求転送アカウント (中間層レベル) としてサインインする場合、 AWS コストの表示には、請求転送 (請求レシーバー) アカウントによって設定された料金設定が反映されます。この金額は、請求書のソースアカウントの使用に対して請求書の移管アカウントに支払う金額を表します。
> 1 レベルまたは 2 レベルの転送設定で請求転送を使用し、内部のチャージバックまたはショーバック要件に Billing Conductor を使用するように請求ソースアカウントとしてサインインする場合、 AWS コストメトリクスには、請求転送アカウントによって設定された料金データが反映されます。これは、 で使用するために請求書転送アカウントに対して支払うコストを表します AWS Organizations。

- マージン – すべての請求グループによって蓄積された合計の月次累計マージンです。マージンは、請求額から AWS コストを差し引いて計算されます。マージンは、料金プラン、適用されたカスタム明細項目などの要因に基づいてマイナスになることもあります。

  > **Note**
  >
  > 請求後の期間の調整は、マージン履歴に影響を及ぼします。詳細については、「マージンの分析」を参照してください。

- 請求グループ – 相互に排他的なアカウントのグループの数。請求転送ユーザーの場合は AWS Organizations、それぞれがプライマリアカウントおよび関連する料金プランを持ちます。

請求金額あたりの上位 5 つの請求グループの表示

ビジュアルおよびテーブルビューを参照すると、収益を生み出す上位 5 つの請求グループを把握できます。既存の請求グループを管理するには、ダッシュボードページで [Manage billing groups] (請求グループの管理) を選択します。

請求グループ

Billing Conductor をスタンドアロンサービスとして使用する場合、請求グループは、共通のエンドユーザーを共有する一括請求ファミリー内の一連のアカウントです。これは、見積り請求ドメインにのみ適用されます。そのエンドユーザーはプライマリアカウントを維持し、 グループ全体で発生するコストと使用状況を確認できます。各請求グループの見積り使用量は、独自の一括請求ファミリーとして計算されます。使用量共有 リザーブドインスタンスと Savings Plans の特典は、グループ内でのみ提供され、ボリューム階層割引と Always Free Tier サービスが発生します。アカウントは、請求期間中に 1 つの請求グループにのみ関連付けることができます。

Billing Conductor を請求転送で使用すると、請求グループは one-to-one で請求書の AWS Organizations 転送をマッピングします。この one-to-one のマッピングにより、リザーブドインスタンス、Savings Plans、ボリューム割引の計算方法に変更はありません。

> **Note**
>
> 請求転送請求グループの場合、プライマリアカウントは、請求を移管する管理アカウント (請求元アカウント) に対応します。のリンクされたアカウントはすべて、one-to-one のマッピング要件のため、請求グループに含める AWS Organizations 必要があります。

目次

- 請求グループの作成
  - Billing Conductor をスタンドアロンサービスとして使用する
  - Billing Conductor と請求転送の使用
    - 2 レベル転送の請求グループを自動的に作成する
    - 請求グループを手動で作成する
- 請求グループの詳細の表示
  - 請求グループテーブルの表示
  - 請求グループ別の見積り設定の表示
  - リンクされたアカウントによる見積り設定の表示
  - カスタム価格ディメンションによる請求詳細の表示
- 請求グループ別のコストと使用状況レポートの設定
  - AWS Billing Conductor CUR AWS と標準 CUR AWS の違いを理解する

請求グループの作成

Billing Conductor をスタンドアロンサービスとして使用する

AWS Billing Conductor を使用して請求グループを作成し、アカウントを整理できます。デフォルトでは、管理者権限を持つ支払いアカウントが請求グループを作成できます。各請求グループは相互に排他的です。つまり、1 つのアカウントは特定の請求期間に 1 つの請求グループにのみ属することができます。請求グループのセグメンテーションはすぐに確認できますが、請求グループを作成してからグループのカスタムレートが反映されるまでに最大 24 時間かかります。

> **Note**
>
> 月の中旬に請求グループ間でアカウントを移動すると、請求期間の開始時に戻って、両方の請求グループの再計算が開始されます。月の中旬にアカウントを移動しても、以前の請求期間には影響を及ぼしません。

請求グループを作成するには

1. にサインイン AWS マネジメントコンソール し、https://console.aws.amazon.com/billingconductor/ で AWS Billing Conductor を開きます。
2. ナビゲーションペインで、[Billing groups] (請求グループ) を選択します。
3. [Create billing group] (請求グループの作成) を選択します。
4. [Billing group details] (請求グループの詳細) に、請求グループの名前を入力します。命名制限については、「クォータと制限」を参照してください。
5. (オプション) [Description] (説明) に、請求グループの説明を入力します。
6. 請求グループタイプ`Standard`として を選択します。
7. [Pricing plan] (料金プラン) で、請求グループに関連付ける料金プランを選択します。料金プランを作成するには、「料金プランの作成」を参照してください。
   - または、料金プランのドロップダウンリスト`BasicPricingPlan`にある AWS マネージドを使用することもできます。は、 からクラウドの総コストを`BasicPricingPlan`計算します AWS。この料金プランを編集または削除することはできません。
8. (オプション) 対象 [その他の設定]、請求グループの自動アカウント関連付けを有効にできます。

> **注記**
>
> - 1 つの請求グループのみ自動アカウント関連付けを行うことができます。
> - この機能を有効にすると、組織で作成または追加されたアカウントは、自動的にこの請求グループに関連付けられます。自動関連付けが発生すると、E メール通知も送信されます。
> - 現在 CloudTrail ログ記録証跡がある場合は、CloudTrail ログで自動アカウントの関連付けを確認できます。

9. [Accounts] (アカウント) で、請求グループに追加するアカウントを 1 つ以上選択するか、[Import organizational unit] (組織単位をインポート) を選択して、組織単位内のアカウントを自動的に選択します。OU のインポート機能へのアクセス許可を付与するポリシーの例については、「Billing Conductor への組織単位のインポート機能に対するアクセスの付与」を参照してください。

   テーブルフィルターを使用して、アカウント名、アカウント ID、またはアカウントに関連付けられたルート E メールアドレスで並べ替えることができます。

10. プライマリアカウントは、請求グループ全体の見積りコストと使用状況を表示する機能を継承し、請求グループの見積りコストと使用状況レポート (AWS CUR) を生成できます。

    当月に組織に加わったプライマリアカウントを選択した場合、その請求グループ内のすべてのアカウントの見積りコストには、プライマリアカウントが組織に加わってから蓄積されたコストと使用量のみが含まれます。参加日を確認するには、[参加日を検証] を選択します。詳細については、「プライマリアカウントの参加日と退出日が見積り請求にどのように影響するかを理解する」を参照してください。

11. [Create billing group] (請求グループの作成) を選択します。

> **注記**
>
> - ステップ 9 でプライマリアカウントを選択する必要があります。請求グループ作成後にプライマリアカウントを変更することはできません。新しいプライマリアカウントを割り当てるには、請求グループを削除してアカウントを再グループ化します。支払いアカウントは請求グループ内に含めることができますが、支払いアカウントにプライマリアカウントのロールを割り当てることはできません。

- 請求グループのプライマリアカウントが組織を離れ、その請求グループで自動アカウント関連付けが有効になっている場合は、月末までアカウントが自動的に関連付けられます。その後、請求グループは自動的に削除されます。既存の請求グループの自動アカウント関連付けを有効にすることも、別の請求グループを作成することもできます。

Billing Conductor と請求転送の使用

1 レベルの転送では、コンソールは選択した料金設定で新しい請求グループを作成し、転送の開始時に請求ソースアカウントの AWS 組織に割り当てます。請求グループのステータスは、請求転送日が始まるまで「保留中」として表示されます。

> **Note**
>
> AWS SDK および CLI を使用して請求転送 APIs AWS を使用して請求転送をプログラムでセットアップする場合は、請求グループを作成し、料金プランを関連付けるために Billing Conductor APIsも呼び出す必要があります。これにより、請求ソースアカウントは請求とコスト管理コンソールで見積り請求データを表示できます。

2 レベルの転送では、Billing Conductor AWS Organizations を介して請求ソースアカウントの請求グループを設定するために、請求転送 (請求レシーバー) アカウントが推奨されます。請求グループを手動で設定するか、請求グループの自動作成設定を有効にして AWS Billing Conductor で自動的に作成させることができます (「」を参照2 レベル転送の請求グループを自動的に作成する)。このステップにより、請求書転送アカウントは、請求書転送 (請求書受取人) アカウントによって割り当てられた請求書ソースアカウントのコストを表示できます。APN ディストリビューションプログラムのユーザーの場合、ダウンストリーム販売者は、エンドユーザーの使用に対してディストリビューターに支払う金額を確認できます。

> **Important**
>
> 請求グループが請求ソースアカウントの AWS 組織に割り当てられていない場合、その AWS 組織内のすべてのアカウントは、請求ツールとコスト管理ツールにアクセスするときに見積りコストデータにアクセスできない可能性があります。
> 使用状況データは、CloudWatch を介して、請求元アカウントとその AWS 組織内のアカウントで常に使用できます。

2 レベル転送の請求グループを自動的に作成する

Billing Transfer 招待の詳細で請求転送の自動請求グループ作成設定を有効にして、2 レベルの転送を操作するときに請求グループを自動的に作成できます。設定を有効にすると、 AWS Billing Conductor は、選択した料金プランを適用して、請求を間接的にアカウントに移管する新しいアカウントごとに請求グループを自動的に作成します。自動的に作成された請求グループの名前のAutoCreated-後に、請求書のソースアカウント ID、請求書を転送するアカウントの ID、および請求転送 ID が続きます。

設定はデフォルトで無効になっており、個々の転送に適用されます。自動作成が必要なインバウンド請求転送ごとに設定するため、1 回の請求転送で有効にしても、他の請求転送には影響しません。

この設定を有効にすると、今後の転送にのみ適用され、設定が有効になる前に受け入れられた間接請求転送の請求グループは作成されません。既存の転送の場合は、請求グループを手動で作成する必要があります。詳細については、「請求グループを手動で作成する」を参照してください。

> **Note**
>
> この設定では、アカウントでサービスにリンクされたロールを使用して請求グループを作成します。詳細については、「Billing Conductor のサービスにリンクされたロールの使用」を参照してください。

設定を無効にすると、 AWS Billing Conductor が既に作成した請求グループはアカウントに残り、将来の自動作成のみが停止します。料金プランの変更は同じように機能します。新しい料金プランは、後で作成された請求グループに適用され、既存の請求グループは、作成された料金プランを保持します。

> **Note**
>
> 請求転送がアクティブになってからすぐに、 AWS Billing Conductor はその請求転送の自動請求グループ作成を再試行することがあります。これは、以前の試行が見落とされた場合の安全対策です。請求グループが既に存在する場合、新しい請求グループは作成されません。ただし、設定がまだ有効になっている間に自動的に作成された請求グループを削除すると、再試行によって再作成できます。請求転送の自動作成を停止するには、請求グループを削除するのではなく、設定を無効にします。
> 同じ理由で、CloudTrail 証跡がある場合、新しい請求グループが作成されていなくても、サービスにリンクされたロールによって行われた追加の

GetBillingTransferPreferenceおよび CreateBillingGroupイベントが表示されることがあります。

自動請求グループ作成設定で料金プランが選択されている場合、その料金プランを削除することはできません。その料金プランを削除するには、設定内で別の料金プランを選択するか、設定を無効にします。

設定を設定または表示するには、billingconductor:UpdateBillingTransferPreference、、billingconductor:GetBillin よび organizations:DescribeResponsibilityTransferアクションのアクセス許可が必要です。設定を有効にするには、 アクセスiam:CreateServiceLinkedRole許可も必要です。選択できる料金プランを制御するには、 billingconductor:PricingPlanArn条件キーを使用します。詳細については、「条件キー」を参照してください。

> **Note**
>
> 1 レベルの転送では、設定は引き続き有効にできますが、効果はありません。

請求転送の自動請求グループ作成を有効にするには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインの 設定 で、請求転送 を選択します。
3. インバウンド請求タブを選択し、変更する請求転送を選択します。
4. 詳細ページまたはアクションを使用して、設定の編集ページに移動します。

   > **Note**
   >
   > 編集設定は、請求転送のアクティブ中に使用できます。請求転送は、招待が保留中の場合、転送が承諾された場合、または転送が取り消されてもまだ終了していない場合にアクティブになります。また、招待が拒否、キャンセル、または期限切れになった後、期間限定で利用できるため、設定を無効にして選択した料金プランをリリースできます。

5. 自動請求グループ作成を有効にする では、トグルをオンにします。

6. 自動作成された請求グループの料金プランでは、この設定によって作成されるすべての請求グループに適用する料金プランを選択します。料金プランを作成するには、「料金プランの作成」を参照してください。
7. [保存] を選択します。

招待ページの 設定 セクションを使用して、請求転送の招待の送信中に 設定を有効にすることもできます。

現在の設定を確認するには、請求転送の名前を選択して詳細ページを開き、設定セクションを見つけます。このセクションでは、自動請求グループ作成設定のステータスと、作成する請求グループに適用される料金プランを示します。

設定をプログラムで管理するには、 `UpdateBillingTransferPreference` および `GetBillingTransferPreference`オペレーションを使用します。詳細については、AWS「 Billing Conductor API リファレンス」を参照してください。

請求グループを手動で作成する

請求転送リカバリまたは 2 レベル転送用に請求グループを手動で作成するには

この手順は、請求転送設定中にコンソールが請求グループを作成しない場合、または自動請求グループ作成設定が有効になっていない場合の 2 レベル転送に使用します。

1. にサインイン AWS マネジメントコンソール し、https://console.aws.amazon.com/billingconductor/ で AWS Billing Conductor を開きます。
2. ナビゲーションペインで、[Billing groups] (請求グループ) を選択します。
3. [Create billing group] (請求グループの作成) を選択します。
4. [Billing group details] (請求グループの詳細) に、請求グループの名前を入力します。命名制限については、「クォータと制限」を参照してください。
5. (オプション) [Description] (説明) に、請求グループの説明を入力します。
6. 請求グループタイプ`Standard`として を選択します。
7. 請求グループを作成する請求 AWS Organizations を転送する個人を選択します。

    a. 2 レベルの転送で請求転送を使用している場合は、転送名を展開して、請求グループの作成に使用できる組織を表示します。

    b. リストには、請求グループに関連付けられていない組織のみが表示されます。既に請求グループが関連付けられている組織は、このリストに表示されません。

8. [Pricing plan] (料金プラン) で、請求グループに関連付ける料金プランを選択します。料金プランを作成するには、「料金プランの作成」を参照してください。
9. [Create billing group] (請求グループの作成) を選択します。

請求グループの詳細の表示

このセクションを使用して、請求グループと料金プランの設定を確認するさまざまな方法と、作成後の出力を確認できます。

請求グループテーブルの表示

請求グループを作成した後、フィルター可能なテーブルで請求グループの詳細を表示できます。以下のディメンションを使用してフィルタリングできます。

- 請求グループ名
- プライマリアカウント名
- プライマリアカウント ID
- アカウント数
- 料金プラン名

各請求グループの詳細を表示するには、テーブルで請求グループ名を選択します。自動アカウント関連付け機能を有効にした請求グループには、請求グループ名の横に[自動関連付け]アイコンが表示されます。

請求グループ別の見積り設定の表示

請求グループの詳細を使用して、 AWS Billing Conductor で請求グループをモニタリング、分析、編集できます。請求グループの詳細では、過去 1 か月のマージン分析、適用されたカスタム明細項目の履歴、および必要に応じて請求グループを編集および削除する機能が提供されます。

請求グループの詳細ページを表示するには

1. にサインイン AWS マネジメントコンソール し、https://console.aws.amazon.com/billingconductor/ で AWS Billing Conductor を開きます。
2. ナビゲーションペインで、[Billing groups] (請求グループ) を選択します。
3. 請求グループ テーブルで、請求グループ名を選択します。

> **Note**
>
> 自動関連付け機能は、Billing Conductor をスタンドアロンサービスとして使用する場合にのみ適用されます。

リンクされたアカウントによる見積り設定の表示

この機能は、請求転送ではなく、Billing Conductor をスタンドアロンサービスとして使用する場合にのみ使用できます。 Billing Conductor コンソールのアカウントインベントリツールを使用して、リンクされたアカウントで AWS 請求グループ設定を確認できます。

リンクされたアカウントで請求グループ設定を表示するには

1. にサインイン AWS マネジメントコンソール し、https://console.aws.amazon.com/billingconductor/ で AWS Billing Conductor を開きます。
2. ナビゲーションペインで、アカウントインベントリを選択します。
3. アカウントインベントリテーブルで、アカウント ID を検索するか、フィルターを使用してアカウント ID を検索します。
4. アカウントを選択して、アカウントと請求グループの設定を表示します。

カスタム価格ディメンションによる請求詳細の表示

請求グループと料金プランを作成して割り当てた後、各請求グループの使用タイプの詳細度でカスタム請求ディメンションを表示できます。

次の手順に従って、見積もりドメインでの請求の詳細を表示します。

見積もりの請求詳細を表示するには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、請求ビューモードを有効にします。
3. ドロップダウンリストから、請求転送ビューを選択します。

   ドロップダウンには、最近アクセスした 10 個のビューが表示されます。すべてのビューを表示するには、ドロップダウンメニューの下部にある「すべてのビューを表示」を選択します。

4. 請求ビューモーダルから、 billing group viewまたは を選択しますbilling transfer views。
5. 検索バーを使用して、テーブル内のすべての列の結果をフィルタリングします。

   これらのパラメータを使用してビューを検索します。

   - ビュー名 (部分一致、先頭)

   - アカウント ID (完全一致)

   - タイプ (または の BILLING_TRANSFER完全一致BILLING_TRANSFER_SHOWBACK)

   - 請求期間 (月を選択)
6. 目的の請求ビューを選択し、ビューの選択を選択します。

Billing Conductor をスタンドアロンサービスとして使用する場合、請求グループの使用状況とコストをサービス別および請求グループビュー AWS リージョン で分析できます。コストには、料金設定で定義されたレートが反映されます。

タイプ の請求 AWS Organizations 転送ビューを使用して、請求の転送の見積り使用量を分析できますShowback/Chargeback。利用可能なすべての Cost Explorer フィルターを使用して、請求転送ビューを分析できます。

カスタム明細項目は、[請求の詳細] ページのサービス AWS Billing Conductor の下にあります。

請求グループ別のコストと使用状況レポートの設定

作成した請求グループごとに見積り AWS コストと使用状況レポート (AWS CUR) を作成できます。見積り AWS CUR は、標準の CUR AWS と同じファイル形式、粒度、および列を持ち、特定の期間に利用可能な最も包括的なコストと使用状況データのセットが含まれています。

> **Note**
>
> 分割コスト配分データ機能は、請求転送ユーザーでは使用できません。設定を作成するときは、このオプションを無効にします。
> レガシーページパスを使用して を設定すると、コンソールに請求ビューオプションは表示されません。このオプションは、レガシー CUR へのデータエクスポートパスを介してのみ使用できます。

プロフォーマ CUR AWS は、所有している Amazon Simple Storage Service (Amazon S3) バケットに公開できます。

AWS は、バケット内のレポートをカンマ区切り値 (CSV) または Apache Parquet 形式で 1 日 1 回更新します。Microsoft Excel や Apache OpenOffice Calc などのスプレッドシートソフトウェアを使用してレポートを表示できます。Amazon S3 または Amazon Athena API を使用して、アプリケーションからアクセスすることもできます。標準 CUR AWS の詳細については、AWS 「コストと使用状況レポートユーザーガイド」を参照してください。

AWS Billing Conductor CUR AWS と標準 CUR AWS の違いを理解する

Billing AWS Conductor 設定を使用して作成された標準コストと使用状況レポートと見積り AWS CUR にはいくつかの違いがあります。

- 標準の CUR AWS は、一括請求ファミリーの各アカウントのコストと使用量を計算します。請求グループあたりの見積り CUR AWS には、計算時に請求グループのアカウントのみが含まれます。
- 標準の CUR は 1 AWS 回請求書列に入力され、請求書は によって生成されます AWS。見積り AWS CUR は請求書列に入力されません。現在、見積り請求データ AWS に基づいて が生成または発行する請求書はありません。

次の手順を使用して、請求グループの見積り AWS CUR を生成します。

請求グループのプロフォーマコストと使用料レポートを作成するには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、[Cost & Usage Reports] (コストと使用状況レポート) を選択します。
3. [レポートを作成] を選択します。
4. タイプをエクスポートを選択します。
5. [レポート名] に、レポートの名前を入力します。
6. 請求ビューで、次のいずれかのオプションを選択します。

   - Billing Conductor をスタンドアロンサービスとして使用する場合は、請求グループビューを選択します。

   - Billing Conductor を請求転送で使用する場合は、請求転送ビューを選択します。

- に見積りデータを含めるには、請求転送ビューの Showback/Chargeback ビューを選択します。

7. [Additional report details] で、[Include resource IDs] を選択して各リソースの ID をレポートに含めます。
8. データ更新設定で、請求を確定した後、 AWS コストと使用状況の新しい変更でコストと使用状況レポートを更新するかどうかを選択します。レポートが更新されると、新しいレポートが Amazon S3 にアップロードされます。

> **Note**
>
> 請求グループのコストと使用状況レポートには、クレジット、税金、またはサポート料金は含まれていません。

9. [次へ] を選択します。
10. [S3 バケット] で、[設定] を選択します。
11. [S3 バケットの設定] ダイアログボックスで、次のいずれかを実行します。
    - ドロップダウンリストから既存のバケットを選択し、[Next] (次へ) を選択します。
    - バケット名と新しいバケットを作成する AWS リージョンを入力し、次へを選択します。
12. [I have confirmed that this policy is correct] (このポリシーが正しいことを確認しました) を選択した後、[Save] (保存) を選択します。
13. [レポートパスのプレフィックス)] に、レポート名に付加するレポートパスのプレフィックスを入力します。

    このステップは Amazon Redshift または Quick ではオプションですが、Amazon Athena では必須です。

    プレフィックスを指定しない場合、既定のプレフィックスは、ステップ 4 でレポートに指定した名前とレポートの日付範囲です。形式は次のとおりです。

    ```
    /report-name/date-range/
    ```

14. [時間粒度] で、次のいずれかを選択します。
    - 時間単位: レポートの明細項目を 1 時間ごとに集計する場合に選択します。
    - 日単位: レポートの明細項目を 1 日ごとに集計する場合に選択します。

15. [レポートバージョニング] で、レポートの各バージョンでレポートの以前のバージョンを上書きするのか、以前のバージョンに加えて配信するのかを選択します。
16. のレポートデータ統合を有効にする で、コストと使用状況レポートを Amazon Athena、Amazon Redshift、または Quick にアップロードするかどうかを選択します。レポートは、以下の形式で圧縮されています。

    - Athena: parquet 圧縮
    - Amazon Redshift または Quick: .gz 圧縮

17. [次へ] を選択します。
18. レポートの設定を確認したら、[Review and Complete] (確認して完了) を選択します。

料金プランのルール

AWS Billing Conductor で料金ルールを作成して、請求グループ全体で請求レートをカスタマイズできます。料金設定ルールは、グローバル、サービス固有、請求エンティティ固有、または範囲内で SKU 固有にすることができます。料金設定ルールでは、各範囲に割引または割増を適用できます。範囲は重複しません。異なる範囲の料金ルールが 1 つの料金プランに含まれる場合、範囲は最も細かいものから少ないものに適用されます。

グローバル料金ルールとサービス料金ルールでは、Always Free Tier レートを非アクティブ化またはアクティブ化することもできます。Always Free Tier が非アクティブ化された料金ルールは、デフォルトで使用タイプまたはオペレーションの最初の有料階層になります。

デフォルトでは、管理者権限を持つ支払者アカウントは料金ルールを作成できます。請求グループに料金設定ルールを適用してから請求グループのカスタムレートに反映されるまで、最大で 24 時間かかります。

SKU 範囲の料金ルールでは、料金と使用状況の階層化範囲をカスタマイズできます。カスタムレートは、その特定の SKU (サービス、使用タイプ、オペレーションの組み合わせ) の AWS パブリックオンデマンドレートを置き換えます。SKU に複数の使用階層がある場合は、各階層の使用範囲とレートをカスタマイズできます。これは、顧客と定額料金またはカスタム料金構造を交渉している場合に便利です。これにより、見積り請求書にそのレートを直接反映できます。SKU スコープのカスタムレートルールは、その SKU のより広範なマークアップまたは割引ルールよりも優先されます。SKU ごとに設定できる料金ルールは 1 つだけです。

> **Note**
>
> カスタム料金はオンデマンド使用にのみ適用されます。リザーブドインスタンスと AWS Savings Plans の購入には影響しません。

1 つの料金プランを複数の請求グループに適用できます。

目次

- 料金設定ルールの作成
- 料金ルールテーブルの表示

料金設定ルールの作成

料金設定ルールを作成するには、次の手順に従います。

料金設定ルールを作成するには

1. AWS Billing Conductor を https://console.aws.amazon.com/billingconductor/ で開きます。
2. ナビゲーションペインで、[Pricing configuration] (料金設定) を選択します。
3. [Pricing rules] (料金設定ルール) タブを選択します。
4. [Create pricing rules] (料金設定ルールの作成) を選択します。
5. [Pricing rule details] (料金設定ルールの詳細) に、料金設定ルールの名前を入力します。命名制限については、「クォータと制限」を参照してください。
6. (オプション) [Description] (説明) に、料金設定ルールの説明を入力します。
7. [Scope] (範囲) で、`Global`、`Service`、`Billing entity`、または SKU を選択します。
   - グローバル - すべての使用に適用されます。
   - サービス - 指定されたサービスにのみ適用されます。サービスを選択するときは、料金レートを設定するサービスコードを選択します。サービスを選択するときは、調整する Price List Query API からサービスコードを選択します。
   - 請求エンティティ - 任意の請求エンティティにのみ適用されます。請求エンティティは、、その関連会社 AWS、またはサービスを販売するサードパーティープロバイダーによって提供されるサービスの販売者です AWS Marketplace。
   - SKU - サービス (製品) コード、使用タイプ、オペレーションの固有の組み合わせにのみ適用されます。
8. Type で、次のいずれかのタイプを選択します。使用可能なタイプは、選択したスコープによって異なります。
   - 割引 - パーセンテージベースの割引を適用します。このタイプはすべてのスコープで使用できます。
   - マークアップ - パーセンテージベースのマークアップを適用します。このタイプはすべてのスコープで使用できます。
   - 無料利用枠の設定 - 請求グループの使用に対して AWS 無料利用枠をオンまたはオフにします。このタイプは、グローバルスコープとサービススコープで使用できます。
   - カスタム - 特定の SKU に独自の料金と使用階層範囲を設定します。このタイプは SKU スコープでのみ使用できます。

9. 選択したタイプの設定を完了します。

   - Discount または Markup には、パーセンテージを入力します。

     パーセンテージとして **0** を入力すると、料金プランはデフォルトの AWS オンデマンド料金になります。10 進値を入力すると、小数点以下第 2 位まで四捨五入されます。

     > **Note**
     >
     > この割合は、メンバーアカウントの請求書ページに表示されます。例えば、EC2 t3.micro on-demand (+20%)。

   - 無料利用枠の設定では、無料利用枠トグルを使用して Always Free Tier をオンまたはオフにします。明示的に無効にしない限り、常に無料利用枠がオンになっています。オフの場合、レートはデフォルトで、使用タイプまたはオペレーションの最初の有料階層になります。
   - カスタム の場合、レート設定テーブルを完了して、SKU に独自のレートを設定します。
     - レート設定テーブルは、選択した SKU AWS のオンデマンド料金から事前に入力されています。From と To の 3 つの列があり、Rate 値はその範囲のレートです。
     - Rate value 列で、パーセンテージを入力するのではなく、各範囲のレートを直接設定します。レート値は小数点以下第 10 位までをサポートし、SKU の最も高いオンデマンドレートの 2 倍を超えることはできません。
     - SKU が使用階層別のオンデマンド料金をサポートしている場合は、各階層の From および To ブレークポイントとレート値をカスタマイズできます。範囲を追加または削除することで、階層の数を変更することもできます。範囲の数は、SKU のオンデマンド料金階層の元の数を超えることはできません。範囲は連続している必要があります。各範囲の To 値は、次の範囲の From 値と一致する必要があります。最初の範囲は常に 0 で始まり、最後の範囲には上限はありません。
     - 変更を破棄し、元のオンデマンド範囲とレートを復元するには、オンデマンドレートにリセットを選択します。

     > **Note**
     >
     > カスタム料金はオンデマンド使用にのみ適用されます。リザーブドインスタンスと AWS Savings Plans の購入には影響しません。

10. (オプション) 同じワークフローで別の料金設定ルールを作成するには、[Add pricing rule] (料金ルールの追加) を選択します。

11. [Create pricing rule] (料金設定ルールの作成) を選択します。

料金ルールテーブルの表示

料金設定ルールを作成した後、フィルター可能なテーブルで料金設定ルールの詳細を表示できます。以下のディメンションを使用して、フィルターできます。

- 料金設定ルール名
- スコープ
- タイプ
- 詳細
- Rate

カスタムレートを使用する SKU スコープの料金ルールの場合、タイプ列にカスタムが表示されます。

料金プラン

AWS Billing Conductor の料金プランを使用して、請求グループ全体の請求詳細の出力をカスタマイズできます。

料金プランには 2 つのタイプがあります。

- AWS マネージド料金プラン
- カスタマーマネージド料金プラン

AWS マネージド料金プランは読み取り専用 (編集または削除不可) です AWS。 によって作成されたテンプレート料金プランは、次のマネージド料金プラン AWS をサポートします。

- `BasicPricingPlan` - 非公開割引を除く見積りコストを計算し、クレジット、税金、サポート料金を除外します。
- `Passthrough` - 請求書を反映した請求対象データを請求グループメンバー AWS に渡します。このオプションは、請求転送請求グループにのみ適用されます。

> **Note**
>
> - 請求グループの料金設定をパススルー料金プランとの間で切り替えると、現在の月のコストデータが更新されます。たとえば、切り替えが 5 月 15 日に行われた場合、5 月 1 日以降のデータには新しい料金設定が反映されます。
> - 既存のコストと使用状況レポート (CURs) 設定は、料金プランの切り替え後に新しいデータの受信を停止します。ユーザーは、切り替え後に新しい CUR 設定を作成する必要があります。

目次

- ディストリビューションパートナーの 1 レベル転送の例
- ディストリビューションパートナーの 2 レベルの転送例
- カスタマーマネージド料金プラン
- AWS マネージド料金プランを選択する
- 料金プランの作成

- 料金プランテーブルの表示

ディストリビューションパートナーの 1 レベル転送の例

次の例は、ソリューションプロバイダーと最終顧客が関与する 1 レベルの転送シナリオでパススルー料金プランがどのように相互作用するかを示しています。

ソリューションプロバイダーがパススルーを適用する

最終顧客の AWS 請求書の合計が 98 USD であると仮定します。

エンドユーザーのプライマリビューには 98 USD の消費量が表示されます。これは、ソリューションプロバイダーが自分のアカウントに表示するのと同じビューで、「自分のビュー」と「ショーバック/チャージバックビュー」の両方に表示されます。

ディストリビューションパートナーの 2 レベルの転送例

次の例は、ディストリビューター、ダウンストリーム販売者、最終顧客を含む 2 レベルの転送シナリオでパススルー料金プランがどのように相互作用するかを示しています。

例 1 — ディストリビューターがパススルーを適用し、ダウンストリーム販売者が基本料金プランまたはカスタム料金プランを適用する

エンドユーザーの AWS 請求書の合計が 98 USD で、ダウンストリーム販売者のベーシック料金プランが見積りコストを 100 USD と計算するとします。

1. ディストリビューターは、パススルー料金プランを最終顧客の AWS 組織に適用します。
2. ダウンストリーム販売者は、同じエンドユーザーの AWS 組織に基本料金プラン (またはカスタム料金プラン) を適用します。

- ダウンストリーム販売者「私の見解」 – ダウンストリーム販売者は、ディストリビューターに請求されるのとまったく同じように、最終顧客の請求対象使用量である 98 USD を確認します。これは、ディストリビューターのパススルー料金プランが、エンドユーザーの使用状況についてダウンストリーム販売者に表示される内容を制御するためです。
- 最終顧客プライマリビュー – 最終顧客には、ダウンストリーム販売者のベーシック料金プランまたはカスタム料金プランの設定に基づいて、100 USD の見積りコストが表示されます。エンドユーザーのビューは、ディストリビューターのではなく、ダウンストリーム販売者の料金プランの選択にのみ依存します。

例 2 — ディストリビューターが基本料金プランまたはカスタム料金プランを適用し、ダウンストリーム販売者がパススルーを適用する

ディストリビューターの基本料金プランが、エンドカスタマーの使用に対して 100 USD の見積りコストを計算しているとします。

1. ディストリビューターは、基本料金プラン (またはカスタム料金プラン) を最終顧客の AWS 組織に適用します。
2. ダウンストリーム販売者は、パススルー料金プランを同じエンドユーザーの AWS 組織に適用します。

- ダウンストリーム販売者ビュー – ダウンストリーム販売者は、ディストリビューターの基本料金プランまたはカスタム料金プランによって決定される見積り料金 100 USD で最終顧客の使用状況を確認します。ダウンストリーム販売者のビューは、ディストリビューターの料金プランの選択によって異なります。
- 最終顧客ビュー – 最終顧客には、同じ見積りコストである 100 USD も表示されます。ダウンストリーム販売者はパススルー料金プランを選択したため、ディストリビューターの料金は変更されずに最終顧客に流れます。

カスタマーマネージド料金プラン

カスタマーマネージド料金プランは、 マネージドアカウントによって制御されるカスタマイズ可能な料金プランです。デフォルトでは、管理者権限を持つ管理アカウントは、料金プランを作成、更新、または削除できます。請求グループに料金プランを適用してから、請求グループのカスタム料金が反映されるまでに最大 24 時間かかります。

単一の料金プラン (AWS またはカスタマーマネージド) を複数の請求グループに適用できます。

> **Note**
>
> 料金プランを更新すると、その料金プランが関連付けられている各請求グループの請求詳細にも影響します。料金プランが請求グループまたは請求グループのセットに関連付けられている場合、この変更は現在の請求期間にのみ影響します。以前の請求期間については、同じままです。

AWS マネージド料金プランを選択する

AWS マネージド料金プランを選択するには、次の手順を実行します。

AWS マネージド料金プランを選択するには

1. https://console.aws.amazon.com/billingconductor/ で AWS Billing Conductor を開きます。
2. ナビゲーションペインで、[Billing groups] (請求グループ) を選択します。
3. 請求グループを作成または編集する場合、料金プランについては、ドロップダウンメニューから AWS Managed Pricing Plan カテゴリの料金プランを選択します。

料金プランの作成

次のステップを使用して、料金プラン (カスタマー管理) を作成します。

料金プランを作成するには

1. https://console.aws.amazon.com/billingconductor/ で AWS Billing Conductor を開きます。
2. ナビゲーションペインで、[Pricing configuration] (料金設定) を選択します。
3. [Pricing plan] (料金プラン) タブで、[Create pricing plan] (料金プランの作成) を選択します。
4. [Pricing rule details] (料金設定ルールの詳細) に、料金プランの名前を入力します。命名制限については、「クォータと制限」を参照してください。
5. (オプション) [Description] (説明) に、料金プランの説明を入力します。
6. [Pricing rules table] (料金設定ルールテーブル) で、料金プランに関連付ける料金設定ルールを選択します。料金設定ルール名、範囲、詳細、タイプ、またはレートにより料金設定ルールをフィルタリングできます。
7. [Create pricing plan] (料金プランの作成) を選択します。

料金プランテーブルの表示

料金プランを作成した後、フィルター可能なテーブルで料金プランの詳細を表示できます。以下のディメンションを使用して、フィルターできます。

- 料金プラン名
- 説明

- 料金プランに関連付けられている料金設定ルールの数

カスタム明細項目

AWS Billing Conductor を使用してパーソナライズされた明細項目を作成し、請求グループ内で指定された AWS アカウント に適用します。

カスタム明細項目を使用してコストと割引を割り当てることができます。カスタム明細項目は、定額料金またはパーセント料金値として計算できます。表示設定を使用して、フラットカスタム明細項目のプレゼンテーションを設定できます。ChargeDetails.LineItemFilters. カスタム明細項目の割合の項目別計算ルールを設定して、該当する各明細項目の横にあるカスタム明細項目を表示することもできます。リソースを含めるか除外するように、パーセンテージベースのカスタム明細項目を設定します。これらのリソースには、請求グループのコストと、請求期間中に請求グループに関連付けられているその他の固定カスタム明細項目が含まれます。その後、カスタム明細項目を 1 か月間適用するか、複数か月間繰り返すように設定できます。

カスタム明細項目は、請求ページ、Cost Explorer、特定の明細項目タイプ、明細項目サブタイプ、または請求タイプを含むコストと使用状況レコードなどの請求およびコスト管理ツールに表示されます。Billing Conductor サービスの下に表示されるカスタム明細項目の場合、タイプはカスタム明細項目のタイプに応じて料金またはクレジットになります。他のサービスで表示されるカスタム明細項目の場合、または明細化されたカスタム明細項目の場合、カスタム明細項目のタイプに応じて、タイプは Proforma_Fee または Proforma_Credit になります。

カスタム明細項目を作成する一般的なユースケースを以下に示します (以下に限定されるわけではありません)。

- サポート 料金の割り当て
- 共有サービスコストの配分
- マネージドサービス料金の適用
- 税金の適用
- クレジットの割り振り
- RI と Savings Plans の削減額の割り振り (オンデマンドとは対照的)
- 組織のクレジットと割引明細項目の追加

固定料金カスタム明細項目の作成

次の手順に従って、クレジットまたは手数料の明細項目を個々の請求グループに適用する、カスタム明細項目を作成します。

カスタム明細項目を作成するには

1. https://console.aws.amazon.com/billingconductor/ で AWS Billing Conductor を開きます。
2. ナビゲーションペインで、[Custom line items] (カスタム明細項目) を選択します。
3. [Create custom line item] (カスタム明細項目の作成) を選択します。
4. [Custom line item details] (カスタム明細項目の詳細) に、カスタム明細項目の名前を入力します。命名制限については、「クォータと制限」を参照してください。
5. [Description] (説明) には、カスタム明細項目の説明を入力します。上限は 255 文字です。
6. [Billing period] (請求期間) で、既存の請求期間または以前の請求期間のいずれかを選択します。
7. [Duration] (利用期間) には、「1 か月」または「継続」(終了日の指定なし) を選択します。
8. [Billing group] (請求グループ) で、任意の請求グループを選択します。カスタム請求は、一度に 1 つの請求グループにのみ関連付けることができます。
   - (オプション) 割り当てられたアカウントでは、選択した請求グループアカウントにカスタム明細項目を適用できます。カスタム明細項目は、デフォルトで、選択した請求グループのプライマリアカウントに適用されます。
9. カスタム明細項目タイプの定額料金を選択します。
10. 料金タイプを選択し、入力量を入力します。

    割引明細項目にクレジットが追加されます。これにより、選択した請求グループに請求される金額が減少します。割増明細項目に料金が追加されます。これにより、選択した請求グループに請求される金額が増加します。カスタム明細項目はすべて USD 建てです。
11. 表示設定で、フラットなカスタム明細項目を請求書に表示するサービスを選択します。デフォルト値は `AWSBillingConductor` です。
12. [作成] を選択します。

割合料金カスタム明細項目の作成

次の手順に従って、クレジットまたは手数料の明細項目を個々の請求グループに適用する、カスタム明細項目を作成します。

カスタム明細項目を作成するには

1. AWS Billing Conductor を https://console.aws.amazon.com/billingconductor/ で開きます。
2. ナビゲーションペインで、[Custom line items] (カスタム明細項目) を選択します。

3. [Create custom line item] (カスタム明細項目の作成) を選択します。
4. [Custom line item details] (カスタム明細項目の詳細) に、カスタム明細項目の名前を入力します。命名制限については、「クォータと制限」を参照してください。
5. [Description] (説明) には、カスタム明細項目の説明を入力します。上限は 255 文字です。
6. [Billing period] (請求期間) で、既存の請求期間または以前の請求期間のいずれかを選択します。
7. [Duration] (利用期間) には、「1 か月」または「継続」(終了日の指定なし) を選択します。
8. [Billing group] (請求グループ) で、任意の請求グループを選択します。カスタム請求は、一度に 1 つの請求グループにのみ関連付けることができます。

    - (オプション) 割り当てられたアカウントでは、選択した請求グループアカウントにカスタム明細項目を適用できます。カスタム明細項目は、デフォルトで、選択した請求グループのプライマリアカウントに適用されます。
9. カスタム明細項目タイプのパーセント料金を選択します。
10. 料金タイプを選択し、入力量を入力します。

    割引明細項目にクレジットが追加されます。これにより、選択した請求グループに請求される金額が減少します。割増明細項目に料金が追加されます。これにより、選択した請求グループに請求される金額が増加します。カスタム明細項目はすべて USD 建てです。
11. (オプション) リファレンス値で、計算に含める値を選択します。デフォルトでは、請求グループの合計コストがリソースとして選択されます。これにより、すべての固定カスタム明細項目を除外します。

    a. (オプション) デフォルトでは、Savings Plans の割引が含まれています。これらを計算から除外するには、Savings Plans 割引を除外チェックボックスをオンにします。

    b. (オプション) カスタム明細項目によって特定のサービス料金を実行する場合は、フィルターを使用してカスタム値を選択し、値セクションにサービスコードを入力します。
12. (オプション) 固定カスタム明細項目を 1 つ以上含めます。割合ベースの計算に含める、該当する各固定カスタム明細項目を表から選択します。

    > **Note**
    >
    > リソースを関連付けずに割合のカスタム明細項目を作成できます。これらのカスタム明細項目には、請求データ内の $0.00 値が表示されます。
13. 表示設定の場合

a. 請求書にカスタム明細項目の割合を表示するサービスを選択できます。デフォルト値は `AWSBillingConductor` です。

b. または、Itemized を選択すると、該当する各明細項目の横にあるカスタム明細項目が表示されます。

14. [作成] を選択します。

カスタム明細項目テーブルの表示

カスタム明細項目を作成した後、フィルター可能なテーブルで明細項目の詳細を表示できます。以下のディメンションを使用して、フィルターできます。

- 明細項目名
- 明細項目の説明
- 請求金額
- 明細項目が属している請求グループ
- 明細項目の作成日

以前の請求期間中に作成されたカスタム明細項目を表示するには、[Date picker] (日付選択ツール) ドロップダウンリストを使用します。

カスタム明細項目の編集

カスタム明細項目を編集するには、次の手順を実行します。

カスタム明細項目を編集するには

1. AWS Billing Conductor を https://console.aws.amazon.com/billingconductor/ で開きます。
2. ナビゲーションペインで、[Custom line items] (カスタム明細項目) を選択します。
3. [Create custom line item] (カスタム明細項目の作成) を選択します。
4. 編集するカスタム明細項目を選択します。
5. [編集] を選択します。
6. 編集するパラメータを変更します。

> **Note**
>
> 請求期間、請求グループ、割り当てられたアカウント、請求タイプ (フラットまたはパーセンテージ) 、または請求値タイプ (クレジットまたは料金) を変更することはできません。

7. [Save changes] (変更の保存) をクリックします。

カスタム明細項目の削除

カスタム明細項目を削除するには、次の手順を実行します。

カスタム明細項目を編集するには

1. AWS Billing Conductor を https://console.aws.amazon.com/billingconductor/ で開きます。
2. ナビゲーションペインで、[Custom line items] (カスタム明細項目) を選択します。
3. [Create custom line item] (カスタム明細項目の作成) を選択します。
4. 削除するカスタム明細項目を選択します。
5. [Delete] (削除) を選択します。
6. カスタム明細項目を削除するとどのような影響があるかを読んでから、[Delete custom line item] (カスタム明細項目の削除) を選択します。

マージンの分析

AWS Billing Conductor でマージンの概要とマージンの詳細を使用して、マージンを集計および特定の請求グループの両方で分析できます。

個々の請求グループまたは一連の請求グループのマージンを表示するには、次の手順に従います。

目次

- マージンの概要を使用して総マージンを表示する
  - 請求グループのマージンの概要の表示
  - マージン分析テーブルについて
- マージンの詳細 AWS のサービス を使用してマージンを表示する
  - サービス別の請求グループのマージンの表示
  - マージンの傾向グラフを理解する
  - マージン分析テーブルについて

マージンの概要を使用して総マージンを表示する

請求グループのマージンの概要の表示

請求グループのマージンの概要を表示するには

1. AWS Billing Conductor を https://console.aws.amazon.com/billingconductor/ で開きます。
2. ナビゲーションペインの分析で、マージンの概要を選択します。
3. レポートタイプで、すべての請求グループまたは請求グループの選択を選択します。
4. 請求グループの選択を選択した場合は、請求期間と 1 つ以上の請求グループを選択します。
5. Month-to-dateの概要セクションでは、請求額、AWS コスト、マージンを表示できます。
6. マージン分析は、次の 2 つの方法で表示できます。
   - パフォーマンス (過去 13 か月まで) セクションの棒グラフとして。
   - マージン分析テーブルのテーブルとして。

   マイナスのマージンは、グラフで赤色で表示され、マイナス金額とマイナスのパーセンテージが示されます。

マージン分析テーブルについて

請求グループのマージン分析テーブルは、デフォルトで逆の時系列でソートされます。次の項目を含むすべての列でテーブルを並べ替えることができます。

- 月
- 請求額
- AWS コスト
- マージンの金額
- マージンのパーセント

グラフとテーブルは、選択した請求グループの過去 13 か月間の値を返します。請求グループが異なる時間に作成された場合は、選択された最も古い請求グループの時間範囲を前提としています。

マージン分析テーブルをダウンロード可能な CSV ファイルにエクスポートできます。マージン分析テーブルの横にある [CSV をダウンロード]を選択します。ダウンロードが自動的に開始します。

> **Note**
>
> 請求グループのマージン分析を含む CSV ファイルをダウンロードするには、IAM ポリシーに `billingconductor:ListBillingGroupCostReport` アクセス許可を追加する必要があります。

マージンの詳細 AWS のサービス を使用してマージンを表示する

サービス別の請求グループのマージンの表示

サービスごとに請求グループのマージンを表示するには

1. https://console.aws.amazon.com/billingconductor/ で AWS Billing Conductor を開きます。
2. ナビゲーションペインの 分析で、マージンの詳細を選択します。
3. レポートパラメータで、請求期間と請求グループを選択します。
4. マージン分析は、次の 2 つの方法で表示できます。
    - 上位 5 つのサービスによるマージントレンドセクションの折れ線グラフとして。
    - マージン分析テーブルのテーブルとして。

マージンの傾向グラフを理解する

マージンの詳細には、選択した請求期間のマージン別の上位 5 つのサービスを示す折れ線グラフが表示されます。折れ線グラフには、比較のために過去 3 か月間の各サービスのマージンが表示されます。

このグラフには、選択した請求期間の各サービスのマージンを表示するテーブルも含まれています。この表には、次の列を含む過去 3 か月間に計算された平均マージンが表示されます。

- サービス名
- 平均
- マージン

請求グループが過去 3 か月間にわたってアクティブではなかった場合、グラフには利用可能なコストレポートデータのみが表示されます。

マージン分析テーブルについて

請求グループのマージン分析テーブルには、次の列が含まれます。

- サービス名
- 請求額
- AWS コスト
- マージンの金額
- マージンのパーセント

マージン分析テーブルをダウンロード可能な CSV ファイルにエクスポートできます。マージン分析テーブルの横にある [CSV をダウンロード]を選択します。ダウンロードが自動的に開始します。

> **Note**
>
> 請求グループのマージン分析を含む CSV ファイルをダウンロードするには、IAM ポリシーに `billingconductor:GetBillingGroupCostReport` アクセス許可を追加する必要があります。

Billing and Cost Management での見積りデータの表示

このセクションでは、請求情報とコスト管理コンソールで見積りデータを表示する方法を示します。AWS Billing Conductor の請求ページ統合について説明します。Cost Explorer で見積りコストを分析、予測、レポートすることもできます。見積りコストをサポートするすべての Cloud Financial Management サービスのコンパイル済みリストを参照できます。見積りコストをサポートしないサービスや機能については、 AWS 請求書と照合して、請求可能なレートでコスト AWS アカウントを使用します。

目次

- 請求書ページで見積りコストを表示する
- での見積りコストのアドホック分析の実行 AWS Cost Explorer
  - Billing Conductor をスタンドアロンサービスとして使用する
  - Billing Conductor と請求転送の使用
- Savings Plans、予約カバレッジ、使用率レポートの分析
  - 請求グループ設定と Savings Plans 共有設定の影響を理解する
  - Savings Plans と予約のインベントリを表示する
- での見積りデータの表示 AWS Budgets
- AWS のサービス 見積りベースの請求ビューコストをサポートする
  - 関連情報

請求書ページで見積りコストを表示する

請求グループと料金プランを作成して割り当てた後、管理下にある各請求グループの使用タイプの詳細度で、カスタム請求ディメンションを表示できます。

次の手順に従って、見積もりドメインでの請求の詳細を表示します。

見積もりの請求詳細を表示するには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [請求] を選択します。
3. ナビゲーションペインで、請求ビューモードを有効にします。

4. ドロップダウンリストから、請求転送ビューを選択します。

   ドロップダウンには、最近アクセスした 10 個のビューが表示されます。すべてのビューを表示するには、ドロップダウンメニューの下部にあるすべてのビューを表示するを選択します。

5. 請求ビューモーダルから、 billing group viewまたは を選択しますbilling transfer views。
6. 検索バーを使用して、テーブル内のすべての列の結果をフィルタリングします。

   これらのパラメータを使用してビューを検索します。

   - ビュー名 (部分一致、先頭)

   - アカウント ID (完全一致)

   - タイプ (または の BILLING_TRANSFER完全一致BILLING_TRANSFER_SHOWBACK)

   - 請求期間 (月を選択)

7. 目的の請求ビューを選択し、ビューの選択を選択します。

Billing Conductor をスタンドアロンサービスとして使用する場合、請求グループビューを使用して、請求グループの使用状況とコストをサービスおよび AWS リージョンごとに分析できます。コストには、料金設定で定義されたレートが反映されます。

Showback/Chargeback タイプの請求転送ビューを使用して、請求 AWS Organizations の転送の見積り使用量を分析できます。Cost Explorer フィルターはすべて、請求転送ビューの分析に使用できます。

カスタム明細項目は、[請求の詳細] ページのサービス AWS Billing Conductor の下にあります。

での見積りコストのアドホック分析の実行 AWS Cost Explorer

Billing Conductor をスタンドアロンサービスとして使用する

AWS アカウント Billing Conductor 請求グループの では、Cost Explorer で見積りコストを分析、予測、レポートできます。請求グループのプライマリアカウントは、グループ内のすべてのアカウントのためにこれらのアクティビティを実行できます。を使用している場合 AWS Organizations、管理アカウントは Cost Explorer で見積りコストを分析、予測、またはレポートできません。

請求グループマネージドアカウント (請求グループメンバー) は、請求グループのメンバーであった請求期間のコストと使用状況データを表示でき、見積りデータを利用できます。請求対象のコストと使用状況の履歴データを表示することはできません。履歴データが必要な場合、支払者アカウントはサポート センターに連絡してバックフィルをリクエストできます。データは、請求グループ設定に沿った見積り形式で表示されます。

> **注記**
>
> - Billing Conductor マネージドアカウント (請求グループメンバー) は、Cost Explorer で見積りコストを確認できます。
> - Cost Explorer がサポートするコアワークフローの詳細については、「AWS Cost Management ユーザーガイド」の「Cost Explorer を使用してデータを探索する」を参照してください。

Billing Conductor と請求転送の使用

AWS Organizations 請求転送請求グループの は、Cost Explorer で見積りコストを分析、予測、レポートできます。デフォルトでは、プライマリビューのコストデータには見積りデータのみが表示されます。

見積りコスト AWS のサービス をサポートする のリストについては、「」を参照してくださいAWS のサービス 見積りベースの請求ビューコストをサポートする。

Savings Plans、予約カバレッジ、使用率レポートの分析

Billing Conductor 請求グループの AWS アカウント の Savings Plans、予約カバレッジ、使用率レポートを分析できます。 および レポートは、請求グループごと、および請求グループ AWS Organizations と同様に生成されます。プライマリ請求グループアカウントは、グループ内のすべてのアカウントの見積りコストに基づいて、カバレッジと使用率のデータを表示できます。見積りドメインでは、Savings Plans と予約は、請求対象ドメインの設定にかかわらず、請求グループ内でのみ共有されます。これは、請求転送を使用する Billing Conductor には適用されません。つまり、見積りカバレッジと使用率レポートは、見積り予約と Savings Plans の共有設定に基づいて請求グループレベルで計算されます。これは、請求グループ内のすべてのアカウントでデフォルトで有効になっています。

請求グループマネージドアカウントまたは請求グループメンバーは、そのアカウントに Savings Plans の購入または予約がある場合、見積りコストに基づいてカバレッジと使用率のデータを表示で

きます。請求対象カバレッジと使用率の履歴データを表示することはできません。プロフォーマデータは、2024 年 2 月まではバックフィルできません。

分析には、次のグラフを使用できます。

Savings Plans 使用率グラフ

これは、オンデマンド支出に相当する見積りコストと純削減額の合計を示しています。

Savings Plans カバレッジグラフ

これは、オンデマンド支出の見積りコストがカバーされていないことと、オンデマンドと比較した潜在的な月額削減額を示しています。

予約使用率グラフ

これは、有効な予約コスト、オンデマンドコスト同等額、純削減額の合計、および潜在的な削減額の合計に基づく見積りコストを示しています。

予約カバレッジグラフ

これは、オンデマンドコストと年間削減額の合計に基づく見積りコストを示しています。

Note

- を使用している場合 AWS Organizations、管理アカウントは Cost Explorer で見積りコストを分析、予測、レポートできません。この機能は、請求グループのアカウントでのみ使用できます。
- 合計コミットメント値は、見積りドメインの影響を受けません。
- Billing Conductor をスタンドアロンサービスとして使用する場合は、見積り使用率とカバレッジレポートを使用して最適化を決定しないでください。この制限は、請求グループが one-to-oneでマッピングされるため、請求転送ユーザーには適用されません AWS Organizations。 たとえば、ワークロードの変更、Savings Plans、予約の購入などです。最適化の決定については、請求対象使用率レポートとカバレッジレポートを参照してください。
- 見積りデータに基づいて予約や Savings Plans の購入を行う前に、請求管理者または組織と話し合うことをお勧めします。Savings Plans と予約の購入に関するレコメンデーションは、請求可能な共有設定、請求可能なオンデマンド支出、および請求可能なドメイン内の既存の Savings Plans や予約のパフォーマンスに基づいて、正確なレコメンデーションを提供します。Savings Plans と予約のレコメンデーションは、請求グループのプライ

マリアカウントと連結アカウントの請求対象使用率とカバレッジレポートで報告されたインサイトを反映します。Savings Plans と予約購入のレコメンデーションページを請求グループ内のアカウントとして参照すると、推奨されるコミットメント値は請求可能な使用率とカバレッジレポートを正確に反映します。これは、組織の最適化に関する意思決定の信頼できる情報源です。

請求グループ設定と Savings Plans 共有設定の影響を理解する

割引特典は Billing Conductor の請求グループ内で共有されます。このため、Savings Plans のカバレッジと使用率のメトリクスは、請求グループ設定または請求対象ドメインの Savings Plans 共有設定に基づいて変更される場合があります。この動作は、請求グループが one-to-oneでマッピングされるため、請求転送ユーザーには適用されません AWS Organizations。

例

- Savings Plans 共有が請求対象ドメイン内の組織内のすべてのアカウントで有効になっており、見積りドメイン内の組織内のすべてのアカウントを含む請求グループが 1 つある場合、請求対象ドメインと見積りドメイン間のカバレッジメトリクスと使用率メトリクスに差異はありません。
- Savings Plans 共有が請求対象ドメイン内の組織内のすべてのアカウントで有効になっているが、Billing Conductor 見積りドメインが組織内のアカウントのサブセットを含む請求グループが 1 つあるか、複数の請求グループがあり、それぞれにアカウントのサブセットがある場合、見積りドメインと請求対象ドメインのカバレッジメトリクスと使用率メトリクスに差異が生じます。差異の性質は、請求グループの設定と、Savings Plans が請求グループ内外のアカウントに存在するかどうかによって異なります。ただし、見積りドメインでは請求対象ドメインと比較して使用率メトリクスが低くなる可能性がありますが、見積りドメインでは請求対象ドメインと比較してカバレッジが高くなる可能性があります。
- Savings Plans の共有が請求対象ドメイン内の特定の連結アカウントに制限されており、請求グループに Savings Plans を購入したアカウントが含まれている場合、使用率とカバレッジのメトリクスは、請求対象ドメインと比較して按分的に高くなる可能性があります。これは、見積り Savings Plans の共有動作によって、制限付き請求対象共有設定が上書きされるためです。これにより、より多くのアカウント (請求グループの場合) が Savings Plans の恩恵を受けることができます。

Savings Plans と予約レポートの詳細については、「 Savings Plans ユーザーガイド」の「Savings Plans のモニタリング」およびAWS Cost Management 「 ユーザーガイド」のCost Explorer での予約の理解」を参照してください。 Savings Plans

Savings Plans と予約のインベントリを表示する

Billing Conductor 請求グループ AWS アカウント で の Savings Plans と予約のインベントリを表示できます。プライマリ請求グループアカウントは、請求グループ内のアカウントのインベントリを表示できます。Savings Plans と予約は、請求対象ドメインの設定にかかわらず、請求グループ内でのみ共有されます。

請求グループ管理アカウント、または請求グループメンバーは、そのアカウントで購入した予約と Savings Plans インベントリを表示できます。

Savings Plans インベントリを表示するには (請求グループのプライマリアカウントのみ)

1. にサインイン AWS マネジメントコンソール し、https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、インベントリの下の Savings Plans を選択します。

予約インベントリを表示するには (請求グループのプライマリアカウントのみ)

1. にサインイン AWS マネジメントコンソール し、https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、「概要」の「予約」を選択します。

を使用している場合 AWS Organizations、管理アカウントは Savings Plans と予約のインベントリを表示できます。

> **Note**
>
> - 請求グループメンバーアカウントの場合、キューに入れられた Savings Plans は Savings Plans AWS アカウント の購入のアカウントインベントリページにのみ表示されます (プライマリアカウントの Organizations インベントリには表示されません)。

での見積りデータの表示 AWS Budgets

AWS アカウント AWS Billing Conductor 請求グループの は、 を使用して見積り支出をモニタリングできます AWS Budgets。Billing Conductor 請求グループ AWS アカウント で によって作成された予

算は、見積り請求データをキャプチャし、見積り使用制限を超えたときにアラートを有効にします。予算予測も見積りデータに基づいており、使用制限を超えるとアラートも表示されます。

請求グループのプライマリアカウントは、全体的な請求グループの見積り支出と、特定の請求グループメンバーアカウントへの支出をモニタリングできます。請求グループマネージドアカウントまたは請求グループメンバーは、独自の見積り予算を作成および表示できます AWS アカウント。これらのアカウントは、請求グループのメンバーであった請求期間の予算履歴を表示できます。請求データは、請求グループに参加する前の日付の予算履歴から共有されません。

アカウントが請求グループに参加すると、既存の予算情報が見積りデータのキャプチャを開始します。予算履歴と予測は、見積りデータに基づいています。アカウントが請求グループを離れると、予算は請求対象データのキャプチャを開始します。予算履歴と予測は、今後の請求対象データに基づきます。

> **Note**
>
> 請求対象データに予算アラートが設定されていた請求グループの連結アカウントは、見積りデータビューと一致するようにしきい値を予算アラートに更新することをお勧めします。請求転送ユーザーとして、請求元アカウントのみが予算と予算アラートを使用できます。請求書転送アカウントが予算を設定する必要がある場合は、請求書ソースアカウントで IAM ロールを取得する必要があります。

詳細については AWS Budgets、「 AWS Cost Management ユーザーガイド」の「 によるコストの管理 AWS Budgets」を参照してください。

AWS のサービス 見積りベースの請求ビューコストをサポートする

次の Cloud Financial Management サービスとその機能は、見積りコストをサポートします。

サービスと特徴	AWS アカウント タイプ別のサポートレベル		
	支払者 (管理アカウント)	プライマリアカウント	リンク済み (メンバーアカウント)
AWS Cost and Usage Report	はい	はい	はい
分割コストの配分	いいえ	なし	なし

サービスと特徴	AWS アカウント タイプ別のサポートレベル		
AWS Billing	なし	はい	はい
ダッシュボード	いいえ	はい	はい
請求の詳細	はい	はい	はい
CSV をダウンロードする	いいえ	なし	なし
AWS Cost Explorer	なし	はい	はい
予測	いいえ	はい	はい
レポートを保存する	いいえ	はい	はい
適切なサイジングに関する推奨事項	いいえ	なし	いいえ
コスト異常モニター	いいえ	なし	いいえ
Savings Plans に関する推奨事項	いいえ	なし	いいえ
Savings Plans 使用状況レポート	いいえ	はい	はい
Savings Plans カバレッジレポート	いいえ	はい	はい
予約のレコメンデーション	いいえ	なし	いいえ
予約の使用状況レポート	いいえ	はい	はい
予約カバレッジレポート	いいえ	はい	あり
AWS Budgets	なし	はい	はい

サービスと特徴	AWS アカウント タイプ別のサポートレベル		
予算レポート	いいえ	はい	はい

見積りコストをサポートしていないサービスや機能の場合、 AWS アカウント は AWS 請求書と一致する請求可能な料金でコストを確認します。

関連情報

請求可能な返金、クレジット、割引に対するリンクされたアカウントのアクセスを管理するには、コスト管理コンソールの [詳細設定] ページの [AWS Cost Explorer] セクションを参照してください。

これらのサービスや機能に関する特定の請求可能な料金を IAM エンティティに表示したくない場合は、IAM ポリシーを使用してアクセスを拒否できます。IAM ポリシーの例については、「見積りコストをサポートしていないサービスや機能への AWS Billing and Cost Explorer アクセスを拒否する」を参照してください。

IAM ポリシーをカスタマイズして、特定の許可を付与または拒否することもできます。Billing and Cost Management の IAM アクションの詳細なリストについては、次のトピックを参照してください。

- 「AWS Cost Management ユーザーガイド」の「AWS Cost Management のアクセスコントロールの移行」
- 「AWS Billing のアクセスコントロールの移行」および「AWS Billing ユーザーガイド」

AWS Billing Conductor の概念とベストプラクティス

このセクションでは、 AWS Billing Conductor を使用する際のベストプラクティスについて説明します。

AWS Billing Conductor へのアクセスの制御

AWS Billing Conductor は、支払者または管理アカウントにアクセスできるユーザーのみがアクセスできます。請求グループを作成し、請求情報とコスト管理コンソールで AWS Billing Conductor の主要業績評価指標 (KPIs) を表示するアクセス許可を IAM ユーザーに付与するには、IAM ユーザーに以下も付与する必要があります。

- 組織内のアカウントを一覧表示

AWS Billing Conductor コンソールで請求グループと料金プランをユーザーが作成できるようにする方法の詳細については、「」を参照してくださいの ID とアクセスの管理 AWS Billing Conductor。

AWS Billing Conductor API を使用して Billing Conductor AWS リソースをプログラムで作成することもできます。 AWS Billing Conductor API へのアクセスを設定するときは、プログラムによるアクセスを許可する一意の IAM ユーザーを作成することをお勧めします。これにより、組織内の誰が AWS Billing Conductor コンソールと API にアクセスできるかをより正確に定義できます。 AWS Billing Conductor API へのクエリアクセスを複数の IAM ユーザーに許可するには、それぞれにプログラムによるアクセスの IAM ロールを作成することをお勧めします。

プライマリアカウントの参加日と退出日が見積り請求にどのように影響するかを理解する

このセクションは、請求転送が有効になっていないスタンドアロンサービスとして Billing Conductor を使用する場合にのみ適用されます。

プライマリアカウントが Organization に参加した日付によって、その請求グループの見積りコストの過去の境界が定義されます。月の途中で Organization に参加したアカウントを請求グループのプライマリアカウントとして選択した場合、その請求グループ内のすべてのアカウントは、その月の前半の見積り請求データを表示できません。これは、プライマリアカウントが、その時点で Organization の一部ではなかったためです。同様に、プライマリアカウントが月の途中で Organization を離れた場合、請求グループ内のアカウントは、プライマリアカウントが Organization を離れた日付からの見積り請求を確認できません。

> **Note**
>
> 請求グループは、プライマリアカウントが Organization を離れる翌月に削除対象としてマークされます。今後数か月間、この請求グループ内のアカウントの見積り請求を維持するには、請求グループを削除して新しい請求グループを作成することをお勧めします。新しい請求グループは、新しいプライマリアカウントで作成することも、Organization に再参加した場合は元のアカウントを使用して作成することもできます。
> プライマリアカウントが Organization を離れると、E メール通知が送信されます。

たとえば、プライマリアカウントが 10 月 15 日に組織に加わり、10 月 28 日に退職したとします。請求グループ内のすべてのアカウントの見積り請求データには、10 月 15 日から 28 日までのコストと使用量のみが含まれます。これは、他のアカウントが 10 月全体の請求グループに含まれている場合でも当てはまります。

請求可能な見積りドメイン間でコストデータセットと使用状況データセットの不一致を回避するには、プライマリアカウントとして選択されたアカウントが、1 か月間にわたって Organization の一部であることを確認してください。

AWS Billing Conductor の更新頻度について

AWS 請求データは少なくとも 1 日に 1 回更新されます。 AWS Billing Conductor はこのデータを使用して見積り請求データを計算します。当月に適用するように生成されたカスタム明細項目は、24 時間以内に反映されます。以前の請求期間に適用するために生成されたカスタム明細項目は、請求グループの AWS コストと使用状況レポート、または特定の請求グループの請求ページに反映されるまでに最大 48 時間かかる場合があります。

AWS Billing Conductor の計算ロジックについて

AWS Billing Conductor の計算は、前期間の請求データの履歴整合性を維持しながら、特定の月に行った変更に柔軟に対応します。これは例を挙げて説明するのが一番です。

例: Billing Conductor をスタンドアロンサービスとして使用する

この例では、A と B の 2 つの請求グループがあります。請求グループA は、グループ内のアカウント 1 ~ 3 で請求期間を開始します。月の半ばに、支払いアカウントは `Account 3` を `Billing Group B` に移動します。その時点で、請求グループ A および B のコストを再計算して、最新の変更

を正確にモデル化する必要があります。Account 3 を移動すると、 Billing Group Aの使用状況は、現在の請求期間中に Account 3が請求グループに含まれていないかのようにモデル化されます。さらに、 Billing Group Bの使用量は、請求期間の開始時Billing Group Bから が の一部Account 3であるかのようにモデル化されます。このアプローチにより、請求期間内にアカウントがグループ間で移動した場合に、複雑なレートやチャージバックモデルを計算する必要がなくなります。

メンバーアカウントのスタンスから、新しい請求グループの設定は、月の途中で が新しい請求グループから別の請求グループAccount 3に移動すると、その月のアカウントの使用に適用されます。これは、アカウントが月の初めから新しい請求グループから離れているかのように Cost Explorer と請求書に反映されます。

請求グループ A	日数: 1 ~ 15	日数: 16 ~ 30	月末
アカウント 1	100 USD	100 USD	200 USD
アカウント 2	100 USD	100 USD	200 USD
アカウント 3	100 USD	該当なし	該当なし
合計	300 USD	200 USD	400 USD

請求グループ B	日数: 1 ~ 15	日数: 16 ~ 30	月末
アカウント 4	100 USD	100 USD	200 USD
アカウント 5	100 USD	100 USD	200 USD
アカウント 6	100 USD	100 USD	200 USD
アカウント 3	100 USD	100 USD	200 USD
合計	400 USD	400 USD	800 USD

例: Billing Conductor と請求転送の使用

スタンドアロンの Billing Conductor ユーザーとは異なり、請求転送ユーザーは請求グループを手動で設定しません。ただし、見積りと有料データの変更は、リンクされたアカウントが に追加または

削除された場合 AWS Organizations、または請求書転送アカウントが料金設定を変更した場合に発生します。

Billing Conductor と 2 レベルの請求転送

請求転送は、選択したアカウントの 2 レベルの転送をサポートします。請求書移管アカウントは、独自の請求書とすべての請求書ソースアカウント請求書を外部管理アカウント (請求書移管レシーバー) に移管できます。この受信アカウントは、two-levels-downの請求ソースアカウントからの請求書と、請求書を移管することで請求ソースアカウントになる中間請求書移管アカウントからの請求書の両方を支払う責任があります。

2 レベル転送の詳細については、「請求転送クォータ」を参照してください。

請求転送設定のアカウントロール

アカウントロール	1 レベルの転送	2 レベルの転送
請求元アカウント	一括請求書を生成し、外部管理アカウントに転送します	一括請求書を生成し、外部管理アカウントに転送します
請求書転送アカウント	該当しない	独自の請求書および請求書ソースアカウントの請求書を請求書転送レシーバーアカウントに転送します。請求書ソースアカウントの請求書転送アカウントおよび請求書転送レシーバーの請求書ソースアカウントとして機能します。Billing Conductor を使用して、請求元アカウントに表示される料金を管理します。
請求書転送レシーバー	請求書のソースアカウントと独自のアカウントから一括請求書を受け取り、支払います。Billing Conductor を使用して、請求ソースアカウントに表示される料金を管理します。	すべての請求書ソースアカウント (請求書転送アカウントを含む) と独自のアカウントから一括請求書を受け取り、支払います。Billing Conductor を使用して、すべての請求ソースアカウントの料金を管理します。請求書転送アカウントのみが請求書転送レシーバーによって価格設定され

アカウントロール	1 レベルの転送	2 レベルの転送
		たコストを表示し、請求書ソースアカウントは請求書転送アカウントによって価格設定されたコストを表示します。

例 1: 複合ビジネス

各子会社には複数のビジネスユニットがあります。メディアコングロマリットは、中心的な FinOps 戦略を実装して、ビジネス全体で特定の AWS サービスの使用を奨励し、インフラストラクチャをモダナイズし、全体的なクラウドコストを削減します。

使用フロー

- Business Unit_1.1 (請求元 accountID 123) の AWS 使用量は、標準 AWS 標準計算に基づいて 15 USD です。
- Subsidiary_1 (accountID 456) の AWS 使用量は、 AWS 標準標準計算に基づいて 30 USD です。
- (Conglomerate_ABill Transfer-Bill Receiver accountID 789) の AWS 使用量は、 AWS 標準標準計算に基づいて 10 USD です。

支払いフロー

Conglomerate_A (accountID 789) は、アカウントの使用ごとに 3 つの個別の一括請求書と請求書を受け取ります。合計 AWS 55 USD を支払います。

ショーバックフローとチャージバックフロー

Conglomerate_A (Bill Transfer Receiver、accountID 789) 料金 Subsidiary_1 (Bill Transfer accountID 456) Business Unit_1.1 (Bill source accountID 123) の使用に対して 14 USD、推奨 AWS サービスの使用に対する報酬として Subsidiary 1 (Bill Transfer accountID 456) の使用に対して 29 USD。

AWS Billing and Cost Management コンソールでは、 は のBusiness Unit_1.1コスト (accountID 123) を 14 USD で表示し、独自のコスト (accountID 456) を 29 USD

でSubsidiary_1表示しますConglomerate_A。 は、合計使用量に対して 43 Conglomerate_A USD をSubsidiary_1支払います。

予算編成オペレーションを改善するためのインセンティブを提供するために、 は 13.50 Business Unit_1.1 USD をSubsidiary_1請求します。

AWS Billing and Cost Management コンソールでは、 は によって設定された 13.50 USD の独自のコストのみBusiness Unit_1.1を表示しますSubsidiary_1。

例 2: ディストリビューション再販ビジネス

B 社はディストリビューター再販 AWS サービスです。ディストリビューターは、 AWS 拡張をサポートするために AWS Partner Network (APN) の割引を受けます。ディストリビューターはパートナー (ダウンストリーム販売者) に再販し、その後エンドユーザーに再販します。ディストリビューターとダウンストリーム販売者の両方が APN 割引を共有し、事前に割引されたパブリック料金に基づいてエンドユーザーに請求します。

使用フロー

- エンドユーザー (請求元アカウント ID 123) の AWS 使用量は 20 USD (AWS 標準計算に基づく)
- ダウンストリーム販売者 (Bill Transfer Account ID 456) AWS の は 2 USD (AWS 標準計算に基づく) です。
- ディストリビューター (Bill Transfer-Bill Receiver アカウント ID 789) の AWS 使用量は 1 USD (AWS 標準計算に基づく) です。

支払いフロー

ディストリビューター (Bill Transfer Account-Bill Receiver アカウント ID 789) は、各アカウントの使用に対して 3 つの異なる一括請求書と請求書を受け取り、合計 23 USD を に支払います AWS。

ショーバックフローとチャージバックフロー

ディストリビューター (Bill Transfer-Bill Receiver アカウント ID 789) は、エンドユーザーアカウント (Bill Source アカウント ID 123) の使用に対して 21 USD、Bill Transfer アカウント (ID 456) の使用に対して 3 USD をダウンストリーム販売者に請求します。ダウンストリーム販売者は、請求情報とコスト管理コンソールで 21 USD の価格のエンドユーザー (請求元 ID 123) のコストのみを表示します。ダウンストリーム販売者は、3 USD の請求転送アカウント (ID 456) の独自のコストを排他的に表示します。

ダウンストリーム販売者は、エンドユーザーに 22 USD を請求します (パブリック料金など) 。

> **Note**
>
> 2 レベルの請求転送の場合:
> 請求書転送レシーバーアカウントは、請求書ソースアカウントに招待を送信する必要はありません。請求書転送アカウントのみが招待を送信します。請求書ソースアカウントが招待を受け入れると、請求書転送レシーバーは CloudWatch 通知を受け取り、請求書ソースアカウントの請求を自動的に引き継ぎます。
> Billing Conductor AWS Organizations を介して請求ソースアカウントで請求グループを設定するには、請求書転送レシーバーアカウントが推奨されます。請求グループを手動で設定するか、請求グループの自動作成設定を有効にして AWS Billing Conductor で自動的に作成させることができます (「」を参照2 レベル転送の請求グループを自動的に作成する)。この設定により、請求書転送アカウントは、請求書転送レシーバーによって割り当てられた請求書ソースアカウントのコストを表示できます。APN ディストリビューションプログラムのユーザーの場合、ダウンストリーム販売者は、エンドユーザーの使用量に対してディストリビューターに支払う金額を確認できます。

AWS Billing Conductor のセキュリティ

のクラウドセキュリティが最優先事項 AWS です。お客様は AWS 、セキュリティを最も重視する組織の要件を満たすように構築されたデータセンターとネットワークアーキテクチャを活用できます。

セキュリティは、 AWS お客様とお客様の間の責任共有です。責任共有モデルでは、これをクラウドのセキュリティとクラウド内のセキュリティとして説明しています:

- クラウドのセキュリティ – AWS は、 で AWS サービスを実行するインフラストラクチャを保護する責任を担います AWS クラウド。 は、お客様が安全に使用できるサービス AWS も提供します。サードパーティーの監査者は、AWS コンプライアンスプログラムコンプライアンスプログラムの一環として、当社のセキュリティの有効性を定期的にテストおよび検証。 AWS Billing Conductor に適用されるコンプライアンスプログラムの詳細については、「コンプライアンスプログラムAWS による対象範囲内のサービスコンプライアンスプログラム」を参照してください。
- クラウドのセキュリティ – お客様の責任は、使用する AWS サービスによって決まります。また、お客様は、お客様のデータの機密性、企業の要件、および適用可能な法律および規制などの他の要因についても責任を担います。

このドキュメントは、 AWS Billing Conductor を使用する際に責任共有モデルを適用する方法を理解するのに役立ちます。以下のトピックでは、セキュリティおよびコンプライアンスの目的を達成するように AWS Billing Conductor を設定する方法について説明します。また、 AWS Billing Conductor リソースのモニタリングや保護に役立つ他の AWS サービスの使用方法についても説明します。

トピック

- AWS Billing Conductor でのデータ保護
- の ID とアクセスの管理 AWS Billing Conductor
- Billing Conductor のサービスにリンクされたロールの使用
- AWS Billing Conductor でのログ記録とモニタリング
- AWS Billing Conductor のコンプライアンス検証
- AWS Billing Conductor の耐障害性
- AWS Billing Conductor のインフラストラクチャセキュリティ

AWS Billing Conductor でのデータ保護

AWS の責任共有モデル は、データ保護に適用されます。このモデルで説明されているように、AWS はすべての を実行するグローバルインフラストラクチャを保護する責任があります AWS クラウド。ユーザーは、このインフラストラクチャでホストされるコンテンツに対する管理を維持する責任があります。また、使用する AWS のサービス のセキュリティ設定と管理タスクもユーザーの責任となります。データプライバシーの詳細については、「Data Privacy FAQChina」を参照してください。 欧州におけるデータ保護に関する情報については、General Data Protection Regulation (GDPR) Center を参照してください。

データ保護の目的で、認証情報を保護し AWS アカウント 、 AWS IAM アイデンティティセンターまたは AWS Identity and Access Management (IAM) を使用して個々のユーザーを設定することをお勧めします。この方法により、各自のジョブを遂行するために必要なアクセス許可のみが各ユーザーに付与されます。また、次の方法でデータを保護することもお勧めします:

- 各アカウントで多要素認証 (MFA) を使用します。
- SSL/TLS を使用して AWS リソースと通信します。TLS 1.2 は必須ですが、TLS 1.3 を推奨します。
- で API とユーザーアクティビティのログ記録を設定します AWS CloudTrail。CloudTrail 証跡を使用して AWS アクティビティをキャプチャする方法については、「 AWS CloudTrail ユーザーガイド」のCloudTrail 証跡の使用」を参照してください。
- AWS 暗号化ソリューションと、その中のすべてのデフォルトのセキュリティコントロールを使用します AWS のサービス。
- Amazon Macie などの高度な管理されたセキュリティサービスを使用します。これらは、Amazon S3 に保存されている機密データの検出と保護を支援します。
- コマンドラインインターフェイスまたは API AWS を介して にアクセスするときに FIPS 140-3 検証済み暗号化モジュールが必要な場合は、FIPS エンドポイントを使用します。利用可能な FIPS エンドポイントの詳細については、「連邦情報処理規格 (FIPS) 140-3」を参照してください。

お客様の E メールアドレスなどの極秘または機密情報を、タグ、または [名前] フィールドなどの自由形式のテキストフィールドに含めないことを強くお勧めします。これは、コンソール、API、または SDK を使用して AWS CLIまたは他の AWS のサービス を使用する場合も同様です。 AWS SDKs タグ、または名前に使用される自由記述のテキストフィールドに入力したデータは、請求または診断ログに使用される場合があります。外部サーバーに URL を提供する場合、そのサーバーへのリクエストを検証できるように、認証情報を URL に含めないことを強くお勧めします。

の ID とアクセスの管理 AWS Billing Conductor

AWS Identity and Access Management (IAM) は、管理者が AWS リソースへのアクセスを安全に制御 AWS のサービス するのに役立つ です。IAM 管理者は、Billing Conductor リソースの使用について、誰を認証し (サインインを許可し)、誰を認可するか (許可を付与するか) を管理します。IAM は、追加料金なしで使用できる AWS のサービス です。

トピック

- オーディエンス
- アイデンティティを使用した認証
- ポリシーを使用したアクセス管理
- が IAM と AWS Billing Conductor 連携する方法
- AWS Billing Conductor アイデンティティベースのポリシーの例

オーディエンス

AWS Identity and Access Management (IAM) の使用方法は、ロールによって異なります。

- サービスユーザー - 機能にアクセスできない場合は、管理者にアクセス許可をリクエストします (「AWS Billing Conductor ID とアクセスのトラブルシューティング」を参照)。
- サービス管理者 - ユーザーアクセスを決定し、アクセス許可リクエストを送信します (「が IAM と AWS Billing Conductor 連携する方法」を参照)
- IAM 管理者 - アクセスを管理するためのポリシーを作成します (「AWS Billing Conductor アイデンティティベースのポリシーの例」を参照)

アイデンティティを使用した認証

認証は、ID 認証情報 AWS を使用して にサインインする方法です。、IAM ユーザー AWS アカウントのルートユーザー、または IAM ロールを引き受けることで認証される必要があります。

AWS IAM アイデンティティセンター (IAM Identity Center)、シングルサインオン認証、Google/Facebook 認証情報などの ID ソースからの認証情報を使用して、フェデレーティッド ID としてサインインできます。サインインの詳細については、「AWS サインイン ユーザーガイド」の「AWS アカウントにサインインする方法」を参照してください。

プログラムによるアクセスの場合、 は SDK と CLI AWS を提供してリクエストを暗号化して署名します。詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「API リクエストに対するAWS 署名バージョン 4」を参照してください。

AWS アカウントのルートユーザー

を作成するときは AWS アカウント、すべての AWS のサービス および リソースへの完全なアクセス権を持つ AWS アカウント ルートユーザーと呼ばれる 1 つのサインインアイデンティティから始めます。日常的なタスクには、ルートユーザーを使用しないことを強くお勧めします。ルートユーザー認証情報を必要とするタスクについては、「IAM ユーザーガイド」の「ルートユーザー認証情報が必要なタスク」を参照してください。

IAM ユーザーとグループ

IAM ユーザーは、特定の個人やアプリケーションに対する特定のアクセス許可を持つアイデンティティです。長期認証情報を持つ IAM ユーザーの代わりに一時的な認証情報を使用することをお勧めします。詳細については、IAM ユーザーガイドの「ID プロバイダーとのフェデレーションを使用して にアクセスする必要がある AWS」を参照してください。

IAM グループは、IAM ユーザーの集合を指定し、大量のユーザーに対するアクセス許可の管理を容易にします。詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「IAM ユーザーに関するユースケース」を参照してください。

IAM ロール

IAM ロールは、特定のアクセス許可を持つアイデンティであり、一時的な認証情報を提供します。ユーザーから IAM ロール (コンソール) に切り替えるか、 または API オペレーションを呼び出すことで、ロールを引き受けることができます。 AWS CLI AWS 詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「ロールを引き受けるための各種方法」を参照してください。

IAM ロールは、フェデレーションユーザーアクセス、一時的な IAM ユーザーのアクセス許可、クロスアカウントアクセス、クロスサービスアクセス、および Amazon EC2 で実行するアプリケーションに役立ちます。詳細については、IAM ユーザーガイド の IAM でのクロスアカウントリソースアクセス を参照してください。

ポリシーを使用したアクセス管理

でアクセスを制御する AWS には、ポリシーを作成し、ID AWS またはリソースにアタッチします。ポリシーは、ID またはリソースに関連付けられている場合のアクセス許可を定義します。 は、プリ

ンシパルがリクエストを行うときにこれらのポリシー AWS を評価します。ほとんどのポリシーは JSON ドキュメント AWS として に保存されます。JSON ポリシードキュメントの詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「JSON ポリシー概要」を参照してください。

管理者は、ポリシーを使用して、どのプリンシパルがどのリソースに対して、どのような条件でアクションを実行できるかを定義することで、誰が何にアクセスできるかを指定します。

デフォルトでは、ユーザーやロールにアクセス許可はありません。IAM 管理者は IAM ポリシーを作成してロールに追加し、このロールをユーザーが引き受けられるようにします。IAM ポリシーは、オペレーションの実行方法を問わず、アクセス許可を定義します。

アイデンティティベースのポリシー

アイデンティティベースのポリシーは、アイデンティティ (ユーザー、グループ、またはロール) にアタッチできる JSON アクセス許可ポリシードキュメントです。これらのポリシーは、アイデンティティがどのリソースに対してどのような条件下でどのようなアクションを実行できるかを制御します。アイデンティティベースポリシーの作成方法については、IAM ユーザーガイド の カスタマー管理ポリシーでカスタム IAM アクセス許可を定義する を参照してください。

アイデンティティベースのポリシーは、インラインポリシー (単一の ID に直接埋め込む) または管理ポリシー (複数の ID にアタッチされたスタンドアロンポリシー) にすることができます。管理ポリシーとインラインポリシーのいずれかを選択する方法については、「IAM ユーザーガイド」の「管理ポリシーとインラインポリシーのいずれかを選択する」を参照してください。

リソースベースのポリシー

リソースベースのポリシーは、リソースにアタッチする JSON ポリシードキュメントです。例としては、IAM ロール信頼ポリシーや Amazon S3 バケットポリシーなどがあります。リソースベースのポリシーをサポートするサービスでは、サービス管理者はポリシーを使用して特定のリソースへのアクセスを制御できます。リソースベースのポリシーでは、プリンシパルを指定する必要があります。

リソースベースのポリシーは、そのサービス内にあるインラインポリシーです。リソースベースのポリシーでは、IAM の AWS マネージドポリシーを使用できません。

アクセスコントロールリスト (ACL)

アクセスコントロールリスト (ACL) は、どのプリンシパル (アカウントメンバー、ユーザー、またはロール) がリソースにアクセスするためのアクセス許可を持つかを制御します。ACL はリソースベースのポリシーに似ていますが、JSON ポリシードキュメント形式は使用しません。

Amazon S3、および Amazon VPC は AWS WAF、ACLs。ACL の詳細については、Amazon Simple Storage Service デベロッパーガイド の アクセスコントロールリスト (ACL) の概要 を参照してください。

その他のポリシータイプ

AWS は、より一般的なポリシータイプによって付与されるアクセス許可の上限を設定できる追加のポリシータイプをサポートしています。

- アクセス許可の境界 – アイデンティティベースのポリシーで IAM エンティティに付与することのできるアクセス許可の数の上限を設定します。詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「IAM エンティティのアクセス許可境界」を参照してください。
- サービスコントロールポリシー (SCP) - AWS Organizations内の組織または組織単位の最大のアクセス許可を指定します。詳細については、「AWS Organizations ユーザーガイド」の「サービスコントロールポリシー」を参照してください。
- リソースコントロールポリシー (RCP) – は、アカウント内のリソースで利用できる最大数のアクセス許可を定義します。詳細については、「AWS Organizations ユーザーガイド」の「リソースコントロールポリシー (RCP)」を参照してください。
- セッションポリシー – ロールまたはフェデレーションユーザーの一時セッションを作成する際にパラメータとして渡される高度なポリシーです。詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「セッションポリシー」を参照してください。

複数のポリシータイプ

1 つのリクエストに複数のタイプのポリシーが適用されると、結果として作成されるアクセス許可を理解するのがさらに難しくなります。が複数のポリシータイプが関与する場合にリクエストを許可するかどうか AWS を決定する方法については、「IAM ユーザーガイド」の「ポリシー評価ロジック」を参照してください。

が IAM と AWS Billing Conductor 連携する方法

Billing Conductor へのアクセスを管理するために IAM を使用する前に、 Billing Conductor で使用できる IAM 機能を理解しておく必要があります。Billing Conductor およびその他の AWS のサービスが IAM と連携する方法の概要については、IAM ユーザーガイドのAWS 「IAM と連携する のサービス」を参照してください。

トピック

- Billing Conductor のアイデンティティベースのポリシー

- Billing Conductor のリソースベースのポリシー
- アクセスコントロールリスト (ACL)
- Billing Conductor タグに基づく承認
- Billing Conductor の IAM ロール

Billing Conductor のアイデンティティベースのポリシー

IAM アイデンティティベースのポリシーでは許可または拒否するアクションとリソース、またアクションを許可または拒否する条件を指定できます。Billing Conductor は、特定のアクション、リソース、条件キーをサポートしています。JSON ポリシーで使用するすべての要素については、「IAM ユーザーガイド」の「IAM JSON ポリシー要素のリファレンス」を参照してください。

アクション

管理者は JSON AWS ポリシーを使用して、誰が何にアクセスできるかを指定できます。つまり、どのプリンシパルがどのリソースに対してどのような条件下でアクションを実行できるかということです。

JSON ポリシーの `Action` 要素は、ポリシー内でアクセスを許可または拒否するために使用できるアクションを記述します。関連付けられたオペレーションを実行するためのアクセス許可を付与するには、ポリシーにアクションを含めます。

Billing Conductor のポリシーアクションは、アクション `Billing Conductor:` の前に次のプレフィックスを使用します。たとえば、 Amazon EC2 `RunInstances` API オペレーションで Amazon EC2 インスタンスを実行するためのアクセス許可をユーザーに付与するには、ポリシーに `ec2:RunInstances` アクションを含めます。ポリシーステートメントには、`Action` または `NotAction` エレメントを含める必要があります。Billing Conductor は、このサービスで実行できるタスクを記述する独自のアクションのセットを定義します。

単一のステートメントに複数のアクションを指定するには次のようにコンマで区切ります。

```
"Action": [
      "ec2:action1",
      "ec2:action2"
```

ワイルドカード (*) を使用して複数アクションを指定できます。例えば、`Describe` という単語で始まるすべてのアクションを指定するには次のアクションを含めます。

```
"Action": "ec2:Describe*"
```

Billing Conductor アクションのリストを確認するには、IAM ユーザーガイドの AWS Billing Conductor で定義されるアクションを参照してください。

リソース

管理者は JSON AWS ポリシーを使用して、誰が何にアクセスできるかを指定できます。つまり、どのプリンシパルがどのリソースに対してどのような条件下でアクションを実行できるかということです。

Resource JSON ポリシー要素はアクションを適用するオブジェクトを指定します。ベストプラクティスとして、Amazon リソースネーム (ARN) を使用してリソースを指定します。リソースレベルのアクセス許可をサポートしないアクションの場合は、ステートメントがすべてのリソースに適用されることを示すために、ワイルドカード (*) を使用します。

```
"Resource": "*"
```

Amazon EC2 インスタンスのリソースには次のような ARN があります:

```
arn:${Partition}:ec2:${Region}:${Account}:instance/${InstanceId}
```

ARNs「Amazon リソースネーム (ARNs AWS 「サービス名前空間」を参照してください。

例えば、ステートメントで i-1234567890abcdef0 インスタンスを指定するには、次の ARN を使用します。

```
"Resource": "arn:aws:ec2:us-east-1:123456789012:instance/i-1234567890abcdef0"
```

特定のアカウントに属するすべてのインスタンスを指定するには、ワイルドカード (*) を使用します。

```
"Resource": "arn:aws:ec2:us-east-1:123456789012:instance/*"
```

リソースを作成するためのアクションなど、一部の Billing Conductor は特定のリソースでは実行できません。このような場合はワイルドカード *を使用する必要があります。

```
"Resource": "*"
```

Amazon EC2 API アクションの多くが複数のリソースと関連します。例えば、AttachVolume では Amazon EBS ボリュームをインスタンスにアタッチするため、IAM ユーザーはボリュームおよびイ

ンスタンスを使用する権限が必要です。複数リソースを単一ステートメントで指定するには、ARN をカンマで区切ります。

```
"Resource": [
      "resource1",
      "resource2"
```

Billing Conductor リソースタイプとその ARNs、IAM ユーザーガイドの AWS Billing Conductor で定義されるリソースを参照してください。各リソースの ARN を指定できるアクションについては、AWS 「Billing Conductor で定義されるアクション」を参照してください。

条件キー

管理者は JSON AWS ポリシーを使用して、誰が何にアクセスできるかを指定できます。つまり、どのプリンシパルがどのリソースに対してどのような条件下でアクションを実行できるかということです。

Condition 要素は、定義された基準に基づいてステートメントが実行される時期を指定します。イコールや未満などの条件演算子を使用して条件式を作成して、ポリシーの条件とリクエスト内の値を一致させることができます。すべての AWS グローバル条件キーを確認するには、「IAM ユーザーガイド」のAWS 「グローバル条件コンテキストキー」を参照してください。

Billing Conductor は独自の条件キーのセットを定義し、一部のグローバル条件キーの使用をサポートしています。すべての AWS グローバル条件キーを確認するには、IAM ユーザーガイドのAWS 「グローバル条件コンテキストキー」を参照してください。

Billing Conductor は、以下のサービス固有の条件キーをサポートしています。

`billingconductor:PricingPlanArn`

リクエスト内の料金プランの Amazon リソースネーム (ARN)、特に 内の`PricingPlanArn`メンバー`AutoBillingTransferBillingGroupCreation`。値は ARN であるため、`ArnEquals`や などの ARN 条件演算子`ArnLike`、またはその`IfExists`バリアントを使用します。

この条件キーは、 `billingconductor:UpdateBillingTransferPreference`アクションでのみサポートされています。

ポリシーでこの条件キーを使用するには、ARN 条件演算子で指定します。

```
"Condition": {
```

```
      "ArnEqualsIfExists": {
            "billingconductor:PricingPlanArn": "pricing-plan-arn"
      }
}
```

> **Note**
>
> Billing Conductor は、リクエストに料金プラン ARN が含まれている場合にのみ、リクエストコンテキストbillingconductor:PricingPlanArnに を追加します。を Enabledに設定するリクエストは料金プラン ARN を提供しfalseないため、リクエストが優先設定をオフにすると、キーは存在しません。キーは にも存在せずbillingconductor:GetBillingTransferPreference、設定されません。IAM は、存在しないキーに対して条件演算子を一致なしとして評価します。したがって、このキーArnEqualsで が使用するポリシーは、設定をオフにするリクエストとすべてのGetBillingTransferPreferenceリクエストの両方を拒否します。選択できる料金プランのみを制限し、設定をオフにするには、ArnEqualsIfExists代わりに を使用します。この方法で拒否されたリクエストは、アイデンティティベースのポリシーでアクションが許可されていないAccessDeniedExceptionことを示す を返します。メッセージは、条件キーが拒否の原因となったことを示すものではありません。

すべての Amazon EC2 アクションは aws:RequestedRegion および ec2:Region 条件キーをサポートします。詳細については、「例: 特定のリージョンへのアクセスの制限」を参照してください。

Billing Conductor の条件キーのリストを確認するには、IAM ユーザーガイドの AWS Billing Conductor の条件キーを参照してください。条件キーを使用できるアクションとリソースについては、AWS 「Billing Conductor で定義されるアクション」を参照してください。

例

Billing Conductor のアイデンティティベースのポリシー例を確認するには、「AWS Billing Conductor アイデンティティベースのポリシーの例」を参照してください。

Billing Conductor のリソースベースのポリシー

リソースベースのポリシーとは、指定されたプリンシパルが Billing Conductor リソースに対して、実行できるアクションとその条件を指定する JSON ポリシードキュメントです。Amazon S3

は、Amazon S3 ####に関するリソースベースのアクセス許可ポリシーをサポートします。リソースベースのポリシーでは、リソースごとに他の アカウントに使用許可を付与することができます。リソースベースのポリシーを使用して、 AWS サービスが Amazon S3 ####にアクセスすることを許可することもできます。

クロスアカウントアクセスを有効にするには、アカウント全体、または別のアカウントの IAM エンティティをリソースベースのポリシーのプリンシパルとして指定します。リソースベースのポリシーにクロスアカウントのプリンシパルを追加しても、信頼関係は半分しか確立されない点に注意してください。プリンシパルとリソースが異なる AWS アカウントにある場合は、プリンシパルエンティティにリソースへのアクセス許可も付与する必要があります。アクセス許可は、アイデンティティベースのポリシーをエンティティにアタッチすることで付与します。ただし、リソースベースのポリシーで、同じアカウントのプリンシパルへのアクセス権が付与されている場合は、ID ベースのポリシーをさらに付与する必要はありません。詳細については、IAM ユーザーガイドの「IAM ロールとリソースベースのポリシーとの相違点」を参照してください。

Amazon S3 サービスは、####ポリシーと呼ばれるリソースベースのポリシーの 1 つのタイプのみサポートし、それが####にアタッチされます。このポリシーは、 *Billing Conductor* に対してアクションを実行できるプリンシパルエンティティ (アカウント、ユーザー、ロール、フェデレーションユーザー) を定義します。

例

Billing Conductor のリソースベースのポリシー例を確認するには、「AWS Billing Conductor リソースベースのポリシーの例」を参照してください。

アクセスコントロールリスト (ACL)

アクセスコントロールリスト (ACL) は、リソースにアタッチできる被付与者のリストです。これらは、アタッチされているリソースにアクセスするための権限をアカウントに付与します。Amazon S3 ####リソースに ACL をアタッチできます。

Amazon S3 アクセスコントロールリスト (ACL) を使用すると、####リソースへのアクセスを管理できます。各####には、サブリソースとして ACL がアタッチされています。アクセス権が付与される AWS アカウント、IAM ユーザーまたはユーザーのグループ、または IAM ロールと、アクセス権のタイプを定義します。リソースのリクエストを受信すると、 は対応する ACL AWS をチェックして、リクエスタに必要なアクセス許可があることを確認します。

####リソースを作成すると、Amazon S3 は、リソースに対する完全なコントロールをリソース所有者に付与するデフォルト ACL を作成します。次の####の ACL 例では、John Doe が####の所有者

として表示され、その####に対する完全な制御が許可されています。1 つの ACL には最大 100 個の許可を指定することができます。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<AccessControlPolicy xmlns="http://Billing Conductor.amazonaws.com/doc/2006-03-01/">
  <Owner>
    <ID>c1daexampleaaf850ea79cf0430f33d72579fd1611c97f7ded193374c0b163b6</ID>
    <DisplayName>john-doe</DisplayName>
  </Owner>
  <AccessControlList>
    <Grant>
      <Grantee xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
               xsi:type="Canonical User">
        <ID>c1daexampleaaf850ea79cf0430f33d72579fd1611c97f7ded193374c0b163b6</ID>
        <DisplayName>john-doe</DisplayName>
      </Grantee>
      <Permission>FULL_CONTROL</Permission>
    </Grant>
  </AccessControlList>
</AccessControlPolicy>
```

ACL の ID フィールドは、 AWS アカウントの正規ユーザー ID です。所有しているアカウントでこの ID を表示する方法については、AWS 「アカウント正規ユーザー ID の検索」を参照してください。

Billing Conductor タグに基づく承認

Billing Conductor リソースにタグをアタッチしたり、 Billing Conductor へのリクエストでタグを渡したりすることができます。タグに基づいてアクセスを管理するには、`Billing Conductor:ResourceTag/key-name`、`aws:RequestTag/key-name`、または `aws:TagKeys` の条件キーを使用して、ポリシーの条件要素でタグ情報を提供します。

Billing Conductor の IAM ロール

IAM ロールは、特定のアクセス許可を持つ AWS アカウント内のエンティティです。

Billing Conductor での一時的な認証情報の使用

一時的な認証情報を使用して、フェデレーションでサインインする、IAM 役割を引き受ける、またはクロスアカウント役割を引き受けることができます。一時的なセキュリティ認証情報を取得するには、AssumeRole や GetFederationToken などの AWS STS API オペレーションを呼び出します。

Billing Conductor では、一時的な認証情報の使用がサポートされています。

サービスリンクロール

サービスにリンクされたロールを使用すると、 AWS サービスは他の サービスのリソースにアクセスして、ユーザーに代わってアクションを実行できます。サービスリンクロールは IAM アカウント内に表示され、サービスによって所有されます。IAM 管理者は、サービスリンクロールの許可を表示できますが、編集することはできません。

サービス役割

この機能により、ユーザーに代わってサービスがサービスロールを引き受けることが許可されます。この役割により、サービスがお客様に代わって他のサービスのリソースにアクセスし、アクションを完了することが許可されます。サービスロールはIAM アカウントに表示され、アカウントによって所有されます。つまり、IAM 管理者はこの役割の権限を変更できます。ただし、それにより、サービスの機能が損なわれる場合があります。

Billing Conductor では、サービスロールがサポートされています。

Billing Conductor での IAM ロールの選択

Billing Conductor でリソースを作成する場合、 Billing Conductor ユーザーに代わって Amazon EC2 にアクセスすることを許可するロールを選択します。サービスロールまたはサービスにリンクされたロールを以前に作成している場合、 Billing Conductor は選択できるロールのリストを表示します。Amazon EC2 インスタンスの起動と停止のためのアクセスを、許可するロールを選択することが重要です。

AWS Billing Conductor アイデンティティベースのポリシーの例

デフォルトでは、IAM ユーザーおよびロールには、 Billing Conductor リソースを作成または変更するアクセス許可はありません。また、 AWS マネジメントコンソール、 AWS CLI、または AWS API を使用してタスクを実行することはできません。IAM 管理者は、ユーザーとロールに必要な、指定されたリソースで特定の API オペレーションを実行する権限をユーザーとロールに付与する IAM ポリシーを作成する必要があります。続いて、管理者はそれらの権限が必要な IAM ユーザーまたはグループにそのポリシーをアタッチする必要があります。

JSON ポリシードキュメントのこれらの例を使用して、IAM アイデンティティベースのポリシーを作成する方法については、「IAM ユーザーガイド」の「JSON タブでのポリシーの作成」を参照してください。

トピック

- ポリシーに関するベストプラクティス
- Billing Conductor アイデンティティベースのポリシーの例
- AWS AWS Billing Conductor の マネージドポリシー
- AWS Billing Conductor リソースベースのポリシーの例
- AWS Billing Conductor ID とアクセスのトラブルシューティング

ポリシーに関するベストプラクティス

アイデンティティベースのポリシーは、アカウントで Billing Conductor アカウントの作成、アクセス、削除を行えるユーザーを決定します。これらのアクションでは、 AWS アカウントに費用が発生する場合があります。アイデンティティベースポリシーを作成したり編集したりする際には、以下のガイドラインと推奨事項に従ってください:

- AWS 管理ポリシーを開始し、最小特権のアクセス許可に移行する – ユーザーとワークロードにアクセス許可の付与を開始するには、多くの一般的なユースケースにアクセス許可を付与するAWS 管理ポリシーを使用します。これらは で使用できます AWS アカウント。ユースケースに固有の AWS カスタマー管理ポリシーを定義することで、アクセス許可をさらに減らすことをお勧めします。詳細については、IAM ユーザーガイド の AWS マネージドポリシー または ジョブ機能のAWS マネージドポリシー を参照してください。
- 最小特権を適用する – IAM ポリシーでアクセス許可を設定する場合は、タスクの実行に必要な許可のみを付与します。これを行うには、特定の条件下で特定のリソースに対して実行できるアクションを定義します。これは、最小特権アクセス許可とも呼ばれています。IAM を使用して許可を適用する方法の詳細については、IAM ユーザーガイド の IAM でのポリシーとアクセス許可 を参照してください。
- IAM ポリシーで条件を使用してアクセスをさらに制限する – ポリシーに条件を追加して、アクションやリソースへのアクセスを制限できます。例えば、ポリシー条件を記述して、すべてのリクエストを SSL を使用して送信するように指定できます。条件を使用して、サービスアクションが などの特定の を通じて使用されている場合に AWS のサービス、サービスアクションへのアクセスを許可することもできます CloudFormation。詳細については、IAM ユーザーガイド の IAM JSON ポリシー要素:条件 を参照してください。
- IAM アクセスアナライザーを使用して IAM ポリシーを検証し、安全で機能的なアクセス許可を確保する – IAM アクセスアナライザー は、新規および既存のポリシーを検証して、ポリシーが IAM ポリシー言語 (JSON) および IAM のベストプラクティスに準拠していることを確認します。IAM アクセスアナライザーは 100 を超えるポリシーチェックと実用的な推奨事項を提供し、安全で機

能的なポリシーの作成をサポートします。詳細については、IAM ユーザーガイド の IAM Access Analyzer でポリシーを検証する を参照してください。

- 多要素認証 (MFA) を要求する – で IAM ユーザーまたはルートユーザーを必要とするシナリオがある場合は AWS アカウント、MFA をオンにしてセキュリティを強化します。API オペレーションが呼び出されるときに MFA を必須にするには、ポリシーに MFA 条件を追加します。詳細については、IAM ユーザーガイド の MFA を使用した安全な API アクセス を参照してください。

IAM でのベストプラクティスの詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「IAM でのセキュリティのベストプラクティス」を参照してください。

Billing Conductor アイデンティティベースのポリシーの例

このトピックには、アカウント情報とツールへのアクセスを管理するために IAM ユーザーまたはグループにアタッチできるポリシー例が含まれています。

トピック

- Billing Conductor コンソールに対するフルアクセスの許可
- Billing Conductor API へのフルアクセスの許可
- Billing Conductor コンソールへの読み取り専用アクセス許可の付与
- Billing Conductor に AWS Billing コンソール経由でアクセスを許可する
- AWS コストと使用状況レポートによる Billing Conductor アクセスの許可
- Billing Conductor への組織単位のインポート機能に対するアクセスの付与
- 見積りコストをサポートしていないサービスや機能への AWS Billing and Cost Explorer アクセスを拒否する
- 請求グループによる見積り CUR の作成

Billing Conductor コンソールに対するフルアクセスの許可

Billing Conductor コンソールにアクセスするには、最小限のアクセス許可のセットが必要です。これらの許可により、 AWS アカウント の Billing Conductor コンソールリソースの一覧と詳細を表示できます。最小限必要な許可よりも厳しく制限されたアイデンティティベースポリシーを作成すると、そのポリシーを添付したエンティティ (IAM ユーザーまたはロール) に対してコンソールが意図したとおりに機能しません。

これらのエンティティが Billing Conductor コンソールを引き続き使用できるようにするには、エンティティに次の AWS 管理ポリシーもアタッチします。詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「ユーザーへの許可の追加」を参照してください。

料金設定ルールの作成には、billingconductor:* のアクセス許可に加えて pricing:DescribeServices が必要で、支払いアカウントにリンクされている連結アカウントを一覧表示するには、organizations:ListAccounts が必要です。

JSON

```
{
    "Version":"2012-10-17",
    "Statement": [
        {
            "Effect": "Allow",
            "Action": "billingconductor:*",
            "Resource": "*"
        },
        {
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "organizations:ListAccounts",
                "organizations:DescribeAccount"
            ],
            "Resource": "*"
        },
        {
            "Effect": "Allow",
            "Action": "pricing:DescribeServices",
            "Resource": "*"
        }
    ]
}
```

AWS CLI または AWS API のみを呼び出すユーザーには、最小限のコンソールアクセス許可を付与する必要はありません。代わりに、実行しようとしている API オペレーションに一致するアクションのみへのアクセスが許可されます。

Billing Conductor API へのフルアクセスの許可

この例では、IAM エンティティに Billing Conductor API へのフルアクセスを付与します。

JSON

```
{
    "Version":"2012-10-17",
    "Statement": [
        {
            "Effect": "Allow",
            "Action": "billingconductor:*",
            "Resource": "*"
        },
        {
            "Effect": "Allow",
            "Action": "organizations:ListAccounts",
            "Resource": "*"
        }
    ]
}
```

Billing Conductor コンソールへの読み取り専用アクセス許可の付与

この例では、IAM エンティティに Billing Conductor コンソールへの読み取り専用アクセスを付与します。

JSON

```
{
    "Version":"2012-10-17",
    "Statement": [
        {
            "Effect": "Allow",
            "Action": "billingconductor:List*",
            "Resource": "*"
        },
        {
            "Effect": "Allow",
            "Action": "organizations:ListAccounts",
            "Resource": "*"
        },
        {
            "Effect": "Allow",
            "Action": "pricing:DescribeServices",
```

```
            "Resource": "*"
        }
    ]
}
```

Billing Conductor に AWS Billing コンソール経由でアクセスを許可する

この例では、IAM エンティティは、請求コンソールの請求ページから見積り AWS 請求データを切り替えて表示できます。

JSON

```
{
    "Version":"2012-10-17",
    "Statement": [
        {
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "billing:ListBillingViews",
                "aws-portal:ViewBilling"
            ],
            "Resource": "*"
        }
    ]
}
```

AWS コストと使用状況レポートによる Billing Conductor アクセスの許可

この例では、IAM エンティティは、請求コンソールのコストと使用状況レポートページから見積り AWS 請求データを切り替えて表示できます。

JSON

```
{
    "Version":"2012-10-17",
    "Statement": [
        {
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
```

```
                "billing:ListBillingViews",
                "aws-portal:ViewBilling",
                "cur:DescribeReportDefinitions"
            ],
            "Resource": "*"
        }
    ]
}
```

Billing Conductor への組織単位のインポート機能に対するアクセスの付与

この例では、IAM エンティティは、請求グループの作成時に組織単位 (OU) アカウントをインポートするために必要な特定の AWS Organizations API オペレーションへの読み取り専用アクセス権を持ちます。OU のインポート機能は AWS Billing Conductor コンソールにあります。

JSON

```
{
    "Version":"2012-10-17",
    "Statement": [
        {
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "organizations:ListRoots",
                "organizations:ListOrganizationalUnitsForParent",
                "organizations:ListChildren"
            ],
            "Resource": "*"
        }
    ]
}
```

見積りコストをサポートしていないサービスや機能への AWS Billing and Cost Explorer アクセスを拒否する

この例では、IAM エンティティは、見積りコストをサポートしていないサービスや機能へのアクセスを拒否されます。このポリシーには、管理アカウントおよび個々のメンバーアカウント内で実行できるアクションのリストが含まれています。

JSON

```
{
    "Version":"2012-10-17",
    "Statement": [{
        "Effect": "Deny",
        "Action": [
            "aws-portal:ModifyAccount",
            "aws-portal:ModifyBilling",
            "aws-portal:ModifyPaymentMethods",
            "aws-portal:ViewPaymentMethods",
            "aws-portal:ViewAccount",
            "cur:GetClassic*",
            "cur:Validate*",
            "tax:List*",
            "tax:Get*",
            "tax:Put*",
            "tax:ListTaxRegistrations",
            "tax:BatchPut*",
            "tax:UpdateExemptions",
            "freetier:Get*",
            "payments:Get*",
            "payments:List*",
            "payments:Update*",
            "payments:GetPaymentInstrument",
            "payments:GetPaymentStatus",
            "purchase-orders:ListPurchaseOrders",
            "purchase-orders:ListPurchaseOrderInvoices",
            "consolidatedbilling:GetAccountBillingRole",
            "consolidatedbilling:Get*",
            "consolidatedbilling:List*",
            "invoicing:List*",
            "invoicing:Get*",
            "account:Get*",
            "account:List*",
            "account:CloseAccount",
            "account:DisableRegion",
            "account:EnableRegion",
            "account:GetContactInformation",
            "account:GetAccountInformation",
            "account:PutContactInformation",
            "billing:GetBillingPreferences",
            "billing:GetContractInformation",
```

```
            "billing:GetCredits",
            "billing:RedeemCredits",
            "billing:Update*",
            "ce:GetPreferences",
            "ce:UpdatePreferences",
            "ce:GetReservationCoverage",
            "ce:GetReservationPurchaseRecommendation",
            "ce:GetReservationUtilization",
            "ce:GetSavingsPlansCoverage",
            "ce:GetSavingsPlansPurchaseRecommendation",
            "ce:GetSavingsPlansUtilization",
            "ce:GetSavingsPlansUtilizationDetails",
            "ce:ListSavingsPlansPurchaseRecommendationGeneration",
            "ce:StartSavingsPlansPurchaseRecommendationGeneration",
            "ce:UpdateNotificationSubscription"
        ],
        "Resource": "*"
    }]
}
```

詳細については、「AWS のサービス 見積りベースの請求ビューコストをサポートする」を参照してください。

請求グループによる見積り CUR の作成

ステップ 1: IAM ユーザーにレガシー CUR および請求グループの請求ビューへのフルアクセスを許可します。

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [
        {
        "Sid": "CurDataAccess",
        "Effect": "Allow",
        "Action": "cur:PutReportDefinition",
        "Resource": [
            "arn:*:cur:*:*:definition/*",
            "arn:aws:billing::*:billingview/*"
        ]
      }
    ]
}
```

ステップ 2: 特定の請求グループにアクセスできるように IAM ロールを割り当てるには、ユーザーがアクセスできる請求ビュー ARN を追加します。

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [
        {
            "Sid": "CurDataAccess",
            "Effect": "Allow",
            "Action": "cur:PutReportDefinition",
            "Resource":[
                "arn:aws:cur:us-east-1:123456789012:definition/*",
                "arn:aws:billing::AWS-account-ID:billingview/billing-group-
$billinggroup-primary-account-ID"
                ]
        }
    ]
}
```

詳細については、「請求グループ別のコストと使用状況レポートの設定」を参照してください。

AWS AWS Billing Conductor の マネージドポリシー

ユーザー、グループ、ロールにアクセス許可を追加するには、自分でポリシーを記述するよりも AWS 管理ポリシーを使用する方が簡単です。チームに必要な権限のみを提供する IAM カスタマーマネージドポリシーを作成する には時間と専門知識が必要です。すぐに開始するには、 AWS マネージドポリシーを使用できます。これらのポリシーは、一般的なユースケースをターゲット範囲に含めており、 AWS アカウントで利用できます。 AWS 管理ポリシーの詳細については、IAM ユーザーガイドの「 AWS 管理ポリシー」を参照してください。

AWS サービスは、 AWS 管理ポリシーを維持および更新します。 AWS 管理ポリシーのアクセス許可は変更できません。サービスでは新しい機能を利用できるようにするために、 AWS マネージドポリシーに権限が追加されることがあります。この種類の更新はポリシーがアタッチされている、すべてのアイデンティティ (ユーザー、グループおよびロール) に影響を与えます。新しい機能が立ち上げられた場合や、新しいオペレーションが使用可能になった場合に、各サービスが AWS マネージドポリシーを更新する可能性が最も高くなります。サービスは AWS 管理ポリシーからアクセス許可を削除しないため、ポリシーの更新によって既存のアクセス許可が損なわれることはありません。

さらに、 は、複数のサービスにまたがるジョブ関数の マネージドポリシー AWS をサポートしています。例えば、ReadOnlyAccess AWS 管理ポリシーは、すべての AWS サービスとリソースへの読

み取り専用アクセスを提供します。サービスが新機能を起動すると、 は新しいオペレーションとリソースの読み取り専用アクセス許可 AWS を追加します。ジョブ機能のポリシーの一覧および詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「AWS のジョブ機能のマネージドポリシー」を参照してください。

AWS マネージドポリシー: AWSBillingConductorFullAccess

AWSBillingConductorFullAccess 管理ポリシーは、 AWS Billing Conductor コンソールと APIs への完全なアクセスを許可します。ユーザーは Billing Conductor AWS リソースを一覧表示、作成、削除できます。

このポリシーのアクセス許可を確認するには、「 AWS マネージドポリシーリファレンス」のAWSBillingConductorFullAccess」を参照してください。

AWS マネージドポリシー: AWSBillingConductorReadOnlyAccess

AWSBillingConductorReadOnlyAccess 管理ポリシーは、 AWS Billing Conductor コンソールと APIs への読み取り専用アクセスを許可します。ユーザーは、すべての AWS Billing Conductor リソースを表示および一覧表示できます。ユーザーがリソースを作成または削除することはできません。

このポリシーのアクセス許可を確認するには、「 AWS マネージドポリシーリファレンス」のAWSBillingConductorReadOnlyAccess」を参照してください。

AWS Billing Conductor の AWS 管理ポリシーの更新

このサービスがこれらの変更の追跡を開始してからの AWS Billing Conductor の AWS マネージドポリシーの更新に関する詳細を表示します。このページの変更に関する自動アラートについては、AWS Billing Conductor ドキュメント履歴ページの RSS フィードにサブスクライブしてください。

変更	説明	日付
AWSBillingConductorReadOnlyAccess - 既存のポリシーの更新	読み取り専用ユーザーが請求転送の自動請求グループ作成設定を表示できるように、`AWSBillingConductorReadOnlyAccess` ポリシーに次のアクションを追加しました。	2026 年 9 月

変更	説明	日付
	• billingconductor:GetBillingTransferPreference • organizations:DescribeResponsibilityTransfer • organizations:ListInboundResponsibilityTransfers	
AWSBillingConductorFullAccess - 既存のポリシーの更新	organizations:DescribeResponsibilityTransfer および organizations:ListInboundResponsibilityTransfers アクションをAWSBillingConductorFullAccess ポリシーに追加しました。	2025 年 11 月 19 日

変更	説明	日付
AWSBillingConductorFullAccess - 既存のポリシーの更新	AWSBillingConductorFullAccess ポリシーに次のアクションを追加しました。 • organizations:ListRoots • organizations:ListOrganizationalUnitsForParent • organizations:ListChildren • organizations:DescribeAccount • pricing:GetAttributeValues • pricing:GetProducts	2025 年 9 月 9 日

変更	説明	日付
AWSBillingConductorReadOnlyAccess - 既存のポリシーの更新	AWSBillingConductorReadOnlyAccess ポリシーに次のアクションを追加しました。 • billingconductor:GetBillingGroupCostReport • organizations:ListRoots • organizations:ListOrganizationalUnitsForParent • organizations:ListChildren • organizations:DescribeAccount • pricing:GetAttributeValues • pricing:GetProducts	2025 年 9 月 9 日
AWSBillingConductorReadOnlyAccess	AWSBillingConductorReadOnlyAccess をポリシーGetBillingGroupCostReport に追加しました。	2024 年 2 月 8 日
AWSBillingConductorFullAccess	作成されるポリシー	2022 年 3 月 29 日
AWSBillingConductorReadOnlyAccess	作成されるポリシー	2022 年 3 月 29 日

変更	説明	日付
AWS Billing Conductor 変更ログの発行	AWS Billing Conductor は、AWS 管理ポリシーの変更の追跡を開始しました。	2022 年 3 月 29 日

AWS Billing Conductor リソースベースのポリシーの例

トピック

- 特定の IP アドレスへの Amazon S3 バケットアクセスの制限

特定の IP アドレスへの Amazon S3 バケットアクセスの制限

次の例は、指定したバケット内のオブジェクトに対して任意の Amazon S3 オペレーションを実行するためのアクセス許可をユーザーに付与します。ただし、リクエストは条件で指定された IP アドレス範囲からのリクエストである必要があります。

このステートメントの条件では、54.240.143.* の範囲のインターネットプロトコルバージョン 4 (IPv4) IP アドレスが許可されています。ただし、54.240.143.188 を除きます。

Condition ブロックは、 IpAddress および NotIpAddress条件と、 AWS ワイドaws:SourceIp条件キーである 条件キーを使用します。これらの条件キーの詳細については、「ポリシーでの条件の指定」を参照してください。aws:sourceIpIPv4 値は標準の CIDR 表記を使用します。詳細については、IAM ユーザーガイドの IP アドレス条件演算子 を参照してください。

JSON

```
{
  "Version":"2012-10-17",
  "Id": "S3PolicyId1",
  "Statement": [
    {
      "Sid": "IPAllow",
      "Effect": "Allow",
      "Principal": "*",
      "Action": "s3:*",
      "Resource": "arn:aws:s3:::amzn-s3-demo-bucket1/*",
      "Condition": {
```

```
            "IpAddress": {"aws:SourceIp": "54.240.143.0/24"},
            "NotIpAddress": {"aws:SourceIp": "54.240.143.188/32"}
        }
      }
    ]
}
```

AWS Billing Conductor ID とアクセスのトラブルシューティング

次の情報は、 Billing Conductor と IAM の使用に伴って発生する可能性がある一般的な問題の診断や修復に役立ちます。

トピック

- Billing Conductor でアクションを実行する権限がない
- iam:PassRole を実行する権限がない
- 自分の AWS アカウント以外のユーザーに Billing Conductor リソースへのアクセスを許可したい

Billing Conductor でアクションを実行する権限がない

にアクションを実行する権限がないと AWS マネジメントコンソール 通知された場合は、管理者に連絡してサポートを依頼する必要があります。担当の管理者はお客様のユーザー名とパスワードを発行した人です。

次の例のエラーは、mateojackson IAM ユーザーがコンソールを使用して *Billing Conductor* の詳細を表示しようとしているとき、Billing Conductor:*GetWidget* のアクセス許可がない場合に発生します。

```
User: arn:aws:iam::123456789012:user/mateojackson is not authorized to perform: Billing
 Conductor:GetWidget on resource: my-example-Billing Conductor
```

この場合、Mateo は、Billing Conductor:*GetWidget* アクションを使用して *my-example-Billing Conductor* リソースにアクセスできるように、管理者にポリシーの更新を依頼します。

iam:PassRole を実行する権限がない

iam:PassRole アクションを実行することを認可されていないという エラーが表示された場合は、ポリシーを更新して Billing Conductor にロールを渡せるようにする必要があります。

一部の AWS のサービス では、新しいサービスロールまたはサービスにリンクされたロールを作成する代わりに、既存のロールをそのサービスに渡すことができます。そのためには、サービスにロールを渡すアクセス許可が必要です。

次のエラー例は、marymajor という名前の IAM ユーザーがコンソールを使用して、Billing Conductor でアクションを実行しようする場合に発生します。ただし、このアクションをサービスが実行するには、サービスロールから付与されたアクセス許可が必要です。Mary には、ロールをサービスに渡すアクセス許可がありません。

```
User: arn:aws:iam::123456789012:user/marymajor is not authorized to perform:
 iam:PassRole
```

この場合、Mary のポリシーを更新して iam:PassRole アクションの実行を彼女に許可する必要があります。

サポートが必要な場合は、 AWS 管理者にお問い合わせください。サインイン資格情報を提供した担当者が管理者です。

自分の AWS アカウント以外のユーザーに Billing Conductor リソースへのアクセスを許可したい

他のアカウントのユーザーや組織外の人が、リソースにアクセスするために使用できるロールを作成できます。ロールの引き受けを委託するユーザーを指定できます。リソースベースのポリシーまたはアクセスコントロールリスト (ACL) をサポートするサービスの場合、それらのポリシーを使用して、リソースへのアクセスを付与できます。

詳細については、以下を参照してください:

- Billing Conductor がこれらの機能をサポートするかどうかについては、「が IAM と AWS Billing Conductor 連携する方法」を参照してください。
- 所有 AWS アカウント している のリソースへのアクセスを提供する方法については、IAM ユーザーガイドの「所有 AWS アカウント している別の の IAM ユーザーへのアクセスを提供する」を参照してください。
- リソースへのアクセスをサードパーティーに提供する方法については AWS アカウント、IAM ユーザーガイドの「サードパーティー AWS アカウント が所有する へのアクセスを提供する」を参照してください。
- ID フェデレーションを介してアクセスを提供する方法については、IAM ユーザーガイド の 外部で認証されたユーザー (ID フェデレーション) へのアクセスの許可 を参照してください。

- クロスアカウントアクセスにおけるロールとリソースベースのポリシーの使用方法の違いについては、「IAM ユーザーガイド」の「IAM でのクロスアカウントのリソースへのアクセス」を参照してください。

Billing Conductor のサービスにリンクされたロールの使用

AWS Billing Conductor は AWS Identity and Access Management (IAM) サービスにリンクされたロールを使用します。サービスにリンクされたロールは、Billing Conductor に直接リンクされた一意のタイプの IAM ロールです。サービスにリンクされたロールは Billing Conductor によって事前定義されており、サービスがユーザーに代わって他の AWS サービスを呼び出すために必要なすべてのアクセス許可が含まれています。

サービスにリンクされたロールを使用すると、必要なアクセス許可を手動で追加する必要がなくなるため、Billing Conductor の設定が簡単になります。Billing Conductor は、サービスにリンクされたロールのアクセス許可を定義します。特に定義されている場合を除き、Billing Conductor のみがそのロールを引き受けることができます。定義される許可は信頼ポリシーと許可ポリシーに含まれており、その許可ポリシーを他の IAM エンティティにアタッチすることはできません。

サービスリンクロールを削除するには、最初に関連リソースを削除する必要があります。これにより、リソースへのアクセス許可が誤って削除されないため、Billing Conductor リソースが保護されます。

サービスにリンクされたロールをサポートする他のサービスの詳細については、AWS 「IAM と連携するサービス」を参照し、「サービスにリンクされたロール」列で「はい」があるサービスを探します。サービスリンクロールに関するドキュメントをサービスで表示するには、リンクで [はい] を選択します。

Billing Conductor のサービスにリンクされたロールのアクセス許可

Billing Conductor は、AWSServiceRoleForBillingConductor という名前のサービスにリンクされたロールを使用します。このロールにより、Billing Conductor はユーザーに代わってアカウントで請求グループを作成および管理できます。

AWSServiceRoleForBillingConductor サービスにリンクされたロールは、次のサービスを信頼してロールを引き受けます。

- `billingconductor.amazonaws.com`

という名前のロールアクセス許可ポリシーAWSBillingConductorRolePolicyにより、Billing Conductor は指定されたリソースに対して次のアクションを実行できます。

- アクション: billingconductor:CreateBillingGroup請求グループと料金プランリソース
- アクション: すべての AWS リソースで billingconductor:GetBillingTransferPreference
- アクション: すべての AWS リソースで organizations:DescribeResponsibilityTransfer

JSON を含むポリシードキュメントの詳細については、AWS 「 マネージドポリシーリファレンスガイド」のAWSBillingConductorRolePolicy」を参照してください。

ユーザー、グループ、またはロールにサービスリンクロールの作成、編集、または削除を許可するには、アクセス許可を設定する必要があります。詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「サービスにリンクされたロールのアクセス権限」() を参照してください。

Billing Conductor のサービスにリンクされたロールの作成

サービスリンクロールを手動で作成する必要はありません。請求転送の自動請求グループ作成設定を有効にすると、Billing Conductor がサービスにリンクされたロールを作成します。

Billing Conductor のサービスにリンクされたロールの編集

Billing Conductor では、AWSServiceRoleForBillingConductor サービスにリンクされたロールを編集することはできません。サービスにリンクされたロールを作成すると、多くのエンティティによってロールが参照される可能性があるため、ロール名を変更することはできません。ただし、IAM を使用してロールの説明を編集することはできます。詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「サービスリンクロールの編集」を参照してください。

Billing Conductor のサービスにリンクされたロールの削除

サービスリンクロールが必要な機能またはサービスが不要になった場合にはそのロールを削除することをお勧めします。そうすることで、モニタリングや保守が積極的に行われていない未使用のエンティティを排除できます。ただし、手動で削除する前に、サービスリンクロールをクリーンアップする必要があります。

サービスにリンクされたロールをクリーンアップする

AWSServiceRoleForBillingConductor サービスにリンクされたロールを削除する前に、それを参照するすべての自動請求グループ作成設定を無効にする必要があります。有効な設定がロールを参照している間、Billing Conductor はロールを使用中として報告し、削除はブロックされます。

サービスリンクロールの手動による削除

参照設定を無効にしたら、IAM コンソール、、 AWS CLIまたは AWS API を使用して AWSServiceRoleForBillingConductor サービスにリンクされたロールを削除します。詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「サービスにリンクされたロールの削除」を参照してください。

Billing Conductor サービスにリンクされたロールでサポートされているリージョン

Billing Conductor は、サービスが利用可能なすべてのリージョンでサービスにリンクされたロールの使用をサポートしています。詳細については、「AWS リージョンとエンドポイント」を参照してください。

AWS Billing Conductor でのログ記録とモニタリング

モニタリングは、 AWS アカウントの信頼性、可用性、パフォーマンスを維持する上で重要な部分です。 AWS Billing Conductor の使用状況をモニタリングするためのツールがいくつかあります。

AWS コストと使用状況レポート

AWS コストと使用状況レポートは AWS 、使用状況を追跡し、アカウントに関連する推定請求額を提供します。各レポートには、 AWS アカウントで使用する AWS 製品、使用タイプ、オペレーションの一意の組み合わせごとに明細項目が含まれます。 AWS コストと使用状況レポートをカスタマイズして、時間単位または日単位で情報を集計できます。

AWS コストと使用状況レポートの詳細については、「 コストと使用状況レポートガイド」を参照してください。

を使用した AWS Billing Conductor API コールのログ記録 AWS CloudTrail

AWS Billing Conductor は AWS CloudTrail、 AWS Billing Conductor のユーザー、ロール、または のサービスによって実行されたアクションを記録する AWS サービスである と統合されています。CloudTrail は AWS Billing Conductor のすべての API コールをイベントとしてキャプチャしま

す。キャプチャされた呼び出しには、 AWS Billing Conductor コンソールからの呼び出しと、 AWS Billing Conductor API オペレーションへのコード呼び出しが含まれます。証跡を作成する場合は、AWS Billing Conductor のイベントなど、Amazon S3 バケットへの CloudTrail イベントの継続的な配信を有効にすることができます。証跡を設定しない場合でも、CloudTrail コンソールの [イベント履歴] で最新のイベントを表示できます。CloudTrail で収集された情報を使用して、 AWS Billing Conductor に対するリクエスト、リクエスト元の IP アドレス、リクエスト者、リクエスト日時などの詳細を確認できます。

CloudTrail の詳細については、「AWS CloudTrail ユーザーガイド」を参照してください。

AWS Billing Conductor CloudTrail イベント

このセクションでは、請求情報とコスト管理に関連する CloudTrail イベントの完全なリストを示しています。

イベント名	定義
AssociateAccounts	請求グループへのアカウントの関連付けをログに記録します。
AssociatePricingRules	料金ルールと料金プランの関連付けを記録します。
AutoAssociateAccount	アカウントの請求グループへの自動関連付けを記録します。
AutoDisassociateAccount	次の請求期間中の請求グループからのアカウントの自動関連付け解除をログに記録します。
BatchAssociateResourcesToCustomLineItem	リソースのバッチ関連付けをパーセンテージのカスタム明細項目に記録します。
BatchDisassociateResourcesFromCustomLineItem	パーセンテージのカスタム明細項目からのリソースのバッチ関連付け解除をログに記録します。

イベント名	定義
CreateBillingGroup	請求グループの作成をログに記録します。
CreateCustomLineItem	カスタム明細項目の作成をログに記録します。
CreatePricingPlan	料金プランの作成をログに記録します。
CreatePricingRule	料金ルールの作成をログに記録します。
DeleteBillingGroup	請求グループの削除をログに記録します。
DeleteCustomLineItem	カスタム明細項目の削除をログに記録します。
DeletePricingPlan	料金プランの削除をログに記録します。
DeletePricingRule	料金ルールの削除をログに記録します。
DisassociateAccounts	請求グループからのアカウントの関連付け解除をログに記録します。
DisassociatePricingRules	料金プランからの料金ルールの関連付け解除をログに記録します。
GetBillingTransferPreference	請求転送の自動請求グループ作成設定の取得をログに記録します。
ListAccountAssociations	請求グループのアカウント ID へのアクセスを記録します。
ListBillingGroupCostReports	請求グループの実際の AWS 料金へのアクセスを記録します。
ListBillingGroups	請求期間中の請求グループへのアクセスをログに記録します。

イベント名	定義
ListCustomLineItems	請求期間中のカスタム明細項目へのアクセスを口グに記録します。
ListCustomLineItemVersions	カスタム明細項目のバージョンへのアクセスを口グに記録します。
ListPricingPlans	請求期間中の料金プランへのアクセスを記録します。
ListPricingPlansAssociatedWithPricingRule	料金ルールに関連付けられた料金プランへのアクセスを口グに記録します。
ListPricingRules	請求期間中の料金ルールへのアクセスを口グに記録します。
ListPricingRulesAssociatedToPricingPlan	料金プランに関連付けられた料金ルールへのアクセスを口グに記録します。
ListResourcesAssociatedToCustomLineItem	カスタム明細項目に関連付けられたリソースへのアクセスを口グに記録します。
ListTagsForResource	リソースのタグへのアクセスを記録します。
TagResource	リソース上のタグの関連付けを口グに記録します。
UpdateBillingGroup	請求グループの更新を口グに記録します。
UpdateBillingTransferPreference	請求転送の自動請求グループ作成設定の更新を口グに記録します。

イベント名	定義
UpdateCustomLineItem	カスタム明細項目の更新をログに記録します。
UpdatePricingPlan	料金プランの更新をログに記録します。
UpdatePricingRule	料金ルールの更新をログに記録します。

AWS CloudTrail の Billing Conductor 情報

CloudTrail は、アカウントの作成 AWS アカウント 時に で有効になります。 AWS Billing Conductor でアクティビティが発生すると、そのアクティビティはイベント履歴の他の AWS サービスイベントとともに CloudTrail イベントに記録されます。で最近のイベントを表示、検索、ダウンロードできます AWS アカウント。詳細については、「CloudTrail イベント履歴でのイベントの表示」を参照してください。

AWS Billing Conductor のイベントなど AWS アカウント、 のイベントの継続的な記録については、証跡を作成します。証跡により、CloudTrail はログファイルを Amazon S3 バケットに配信できます。デフォルトでは、コンソールで証跡を作成するときに、証跡がすべての AWS リージョンに適用されます。証跡は、 AWS パーティション内のすべてのリージョンからのイベントをログに記録し、指定した Amazon S3 バケットにログファイルを配信します。さらに、CloudTrail ログで収集されたイベントデータをさらに分析して処理するように他の AWS サービスを設定できます。詳細については、次を参照してください:

- 追跡を作成するための概要
- CloudTrail がサポートされているサービスと統合
- 「CloudTrail の Amazon SNS 通知の設定」
- 複数のリージョンから CloudTrail ログファイルを受け取るおよび複数のアカウントから CloudTrail ログファイルを受け取る

すべての AWS Billing Conductor アクションは CloudTrail によってログに記録され、AWS Billing Conductor API リファレンスに記載されています。

各イベントまたはログエントリには、誰がリクエストを生成したかという情報が含まれます。アイデンティティ情報は、以下を判別するのに役立ちます。

- リクエストがルートまたは AWS Identity and Access Management (IAM) ユーザー認証情報を使用して行われたかどうか。
- リクエストがロールまたはフェデレーションユーザーのテンポラリなセキュリティ認証情報を使用して行われたかどうか。
- リクエストが別の AWS サービスによって行われたかどうか。

詳細については、「CloudTrail userIdentity エレメント」を参照してください。

AWS Billing Conductor ログファイルエントリについて

「トレイル」は、指定した Amazon S3 バケットにイベントをログファイルとして配信するように設定できます。CloudTrail のログファイルは、単一か複数のログエントリを含みます。イベントは、任意の出典からの単一のリクエストを表し、リクエストされたアクション、アクションの日時、リクエストパラメータなどに関する情報が含まれます。CloudTrail ログファイルは、パブリック API 呼び出しの順序付けられたスタックトレースではないため、特定の順序では表示されません。

トピック

- AutoAssociateAccount
- CreateBillingGroup

AutoAssociateAccount

以下の例は、AutoAssociateAccount アクションを示す CloudTrail ログエントリです。


```
{
    "eventVersion": "1.09",
    "userIdentity": {
        "accountId": "111122223333",
        "invokedBy": "billingconductor.amazonaws.com"
    },
    "eventTime": "2024-02-23T00:22:08Z",
    "eventSource": "billingconductor.amazonaws.com",
    "eventName": "AutoAssociateAccount",
    "awsRegion": "us-east-1",
    "sourceIPAddress": "billingconductor.amazonaws.com",
    "userAgent": "billingconductor.amazonaws.com",
    "requestParameters": null,
    "responseElements": null,
    "requestID": "1v14d239-fe63-4d2b-b3cd-450905b6c33",
```

```
    "eventID": "14536982-geff-4fe8-bh18-f18jde35218d0",
    "readOnly": false,
    "eventType": "AwsServiceEvent",
    "managementEvent": true,
    "recipientAccountId": "111122223333",
    "serviceEventDetails": {
        "requestParameters": {
            "Arn": "arn:aws:billingconductor::111122223333:billinggroup/444455556666",
            "AccountIds": [
                "333333333333"
            ]
        },
        "responseElements": {
            "Arn": "arn:aws:billingconductor::111122223333:billinggroup/444455556666"
        }
    },
    "eventCategory": "Management"
}
```

CreateBillingGroup

以下の例は、CreateBillingGroup アクションを示す CloudTrail ログエントリです。

```
{
    "eventVersion": "1.08",
    "userIdentity": {
        "accountId":"111122223333",
        "accessKeyId":"ASIAIOSFODNN7EXAMPLE"
    },
    "eventTime": "2024-01-24T20:30:03Z",
    "eventSource": "billingconductor.amazonaws.com",
    "eventName": "CreateBillingGroup",
    "awsRegion": "us-east-1",
    "sourceIPAddress": "100.100.10.10",
    "userAgent": "aws-internal/3 aws-sdk-java/1.11.465
 Linux/4.9.124-0.1.ac.198.73.329.metal1.x86_64 OpenJDK_64-Bit_Server_VM/25.192-b12
 java/1.8.0_192",
    "requestParameters": {
        "PrimaryAccountId": "444455556666",
        "ComputationPreference": {
            "PricingPlanArn": "arn:aws:billingconductor::111122223333:pricingplan/
TqeITi5Bgh"
        },
        "X-Amzn-Client-Token": "32aafb5s-e5b6-47f5-9795-3a69935e9da4",
```

```
        "AccountGrouping": {
            "LinkedAccountIds": [
                "444455556666",
                "111122223333"
            ]
        },
        "Name": "***"
    },
    "responseElements": {
        "Access-Control-Expose-Headers": "x-amzn-RequestId,x-amzn-ErrorType,x-amzn-
ErrorMessage,Date",
        "Arn": "arn:aws:billingconductor::111122223333:billinggroup/444455556666"
    },
    "requestID": "fb26ae47-3510-a833-98fe-3dc0f602gb49",
    "eventID": "3ab70d86-c63e-46fd8d-a33s-ce2970441a8",
    "readOnly": false,
    "eventType": "AwsApiCall",
    "managementEvent": true,
    "recipientAccountId": "111122223333",
    "eventCategory": "Management"
}
```


での Amazon EventBridge の使用 AWS Billing Conductor

AWS Billing Conductor は、アプリケーションをさまざまなソースのデータに接続するために使用できるイベントバスサービスである Amazon EventBridge と統合されています。詳細については、Amazon EventBridge ユーザーガイドを参照してください。

Amazon EventBridge を使用して AWS Billing Conductor イベントを受信できます。次に、作成したルールに基づいて、イベントがルールで指定した値と一致すると、Amazon EventBridge は 1 つ以上のターゲットアクションを呼び出します。イベントのタイプに応じて、イベント情報をキャプチャしたり、通知を送信したり、その他のアクションを実行したりできます。 AWS Billing Conductor イベントの Amazon EventBridge ルールを設定するには、「Amazon EventBridge ユーザーガイド」の「Amazon EventBridge でルールを作成する」を参照してください。 EventBridge

例: の Amazon EventBridge イベント AWS Billing Conductor

AWS Billing Conductor は、請求転送が受け入れられても対応する請求グループが設定されていない場合、またはアクティブな請求転送に関連付けられた請求グループが削除された場合に、`Billing Group Configuration Recommended for Billing Transfer`詳細タイプの日次サマリーイベントを発行します。請求転送が承諾されたら、請求元アカウントの組織の請求グループを設定する

ことをお勧めします。これにより、その組織のアカウントは請求およびコスト管理ツールの見積りコストデータにアクセスできます。請求グループがない場合、使用状況データは CloudWatch を通じて引き続き使用できますが、請求グループを設定すると、請求元アカウント管理者が予算設定などのコストを簡単にモニタリングできるようになります。

> **Note**
>
> このイベントタイプは現在、米国東部 (バージニア北部) リージョン () でのみサポートされていますus-east-1。

このイベントの一般的な例を次に示します。を使用して Amazon EventBridge イベント (このイベントなど) をサブスクライブできます AWS User Notifications。

```
{
  "account": "<account ID>", // 12-digit account ID
  "region": "us-east-1", // Currently only us-east-1 is supported
  "detail-type": "Billing Group Configuration Recommended for Billing Transfer",
  "source": "aws.billingconductor",
  "version": "0",
  "time": "<date>", // Format: yyyy-MM-dd'T'HH:mm:ssZ
  "id": "<id>", // alphanumeric string
  "resources": [],
  "detail": {
    "targetDate": "<date>", // Format: yyyy-MM-dd
    "recipientId": "<account ID>", // 12-digit recipient account ID
    "eventBridgeEventId": "<event ID>", // unique event identifier
    "directTransfersAccepted": [
      {
        "transferArn": "<transfer ARN>", // ARN of the one-level billing transfer
        "billSourceAccountId": "<account ID>", // 12-digit bill source account ID
        "effectiveTimestamp": "<timestamp>", // Format: yyyy-MM-dd'T'HH:mm:ssZ
        "acceptedTimestamp": "<timestamp>" // Format: yyyy-MM-dd'T'HH:mm:ssZ
      }
    ],
    "indirectTransfersAccepted": [
      {
        "receiverTransferTransferArn": "<transfer ARN>", // ARN of the receiver's
transfer
        "transferBillSourceTransferArn": "<transfer ARN>", // ARN of the bill source's
transfer
        "billTransferAccountId": "<account ID>", // 12-digit bill transfer account ID
```

```
        "billSourceAccountId": "<account ID>", // 12-digit bill source account ID
        "effectiveTimestamp": "<timestamp>", // Format: yyyy-MM-dd'T'HH:mm:ssZ
        "acceptedTimestamp": "<timestamp>" // Format: yyyy-MM-dd'T'HH:mm:ssZ
      }
    ],
    "directBillingGroupsDeleted": [
      {
        "billingGroupArn": "<billing group ARN>", // ARN of the deleted billing group
        "billSourceAccountId": "<account ID>", // 12-digit bill source account ID
        "transferId": "<transfer ID>", // associated transfer ID
        "deletedTimestamp": "<timestamp>" // Format: yyyy-MM-dd'T'HH:mm:ssZ
      }
    ],
    "indirectBillingGroupsDeleted": [
      {
        "billingGroupArn": "<billing group ARN>", // ARN of the deleted billing group
        "billTransferAccountId": "<account ID>", // 12-digit bill transfer account ID
        "billSourceAccountId": "<account ID>", // 12-digit bill source account ID
        "receiverTransferTransferId": "<transfer ID>", // receiver's transfer ID
        "transferBillSourceTransferId": "<transfer ID>", // bill source's transfer ID
        "deletedTimestamp": "<timestamp>" // Format: yyyy-MM-dd'T'HH:mm:ssZ
      }
    ]
  }
}
```

AWS User Notifications での の使用 AWS Billing Conductor

を使用してAWS User Notifications、 AWS Billing Conductor イベントを通知する配信チャネルを設定できます。指定したルールにイベントが一致すると、通知を受け取ります。E メール、Amazon Chime、Microsoft Teams、Slack などのチャットアプリケーションの Amazon Q Developer、AWS Console Mobile Applicationプッシュ通知など、複数のチャネルを通じてイベントの通知を受け取ることができます。 AWS User Notifications コンソールでコンソール通知センターを使用して通知を表示することもできます。

AWS User Notifications は集約もサポートしているため、特定のイベント中に受け取る通知の数を減らすことができます。詳細については、「AWS User Notifications ユーザーガイド」を参照してください。

を使用するには AWS User Notifications、正しい AWS Identity and Access Management (IAM) アクセス許可が必要です。IAM アクセス許可の設定の詳細については、AWS User Notifications 「 ユーザーガイド」の「通知設定の作成」を参照してください。

次の表に、 でサポートされている AWS Billing Conductor イベントタイプを示します AWS User Notifications。

AWS Billing Conductor イベントタイプ

イベントタイプ	説明
請求転送に推奨される請求グループ設定	承諾された転送に対応する請求グループが設定されていない、またはアクティブな請求転送に関連付けられた請求グループが削除された請求転送イベントの日次概要。請求転送が承諾されたら、請求元アカウントの組織の請求グループを設定することをお勧めします。これにより、その組織のアカウントは請求およびコスト管理ツールの見積りコストデータにアクセスできます。請求グループがない場合、使用状況データは CloudWatch を通じて引き続き使用できますが、請求グループを設定すると、請求元アカウント管理者が予算設定などのコストを簡単にモニタリングできるようになります。このイベントタイプは現在、米国東部 (バージニア北部) リージョン () でのみサポートされていますus-east-1 。

イベントの例

以下は、 からのBilling Group Configuration Recommended for Billing Transferイベントの例です AWS Billing Conductor。このイベントは、ソース を使用して Amazon EventBridge に出力されますaws.billingconductor。

```
{
  "account": "<account ID>", // 12-digit account ID
  "region": "us-east-1", // Currently only us-east-1 is supported
  "detail-type": "Billing Group Configuration Recommended for Billing Transfer",
  "source": "aws.billingconductor",
  "version": "0",
  "time": "<date>", // Format: yyyy-MM-dd'T'HH:mm:ssZ
  "id": "<id>", // alphanumeric string
  "resources": [],
  "detail": {
    "targetDate": "<date>", // Format: yyyy-MM-dd
    "recipientId": "<account ID>", // 12-digit recipient account ID
```

```
    "eventBridgeEventId": "<event ID>", // unique event identifier
    "directTransfersAccepted": [
      {
        "transferArn": "<transfer ARN>", // ARN of the one-level billing transfer
        "billSourceAccountId": "<account ID>", // 12-digit bill source account ID
        "effectiveTimestamp": "<timestamp>", // Format: yyyy-MM-dd'T'HH:mm:ssZ
        "acceptedTimestamp": "<timestamp>" // Format: yyyy-MM-dd'T'HH:mm:ssZ
      }
    ],
    "indirectTransfersAccepted": [
      {
        "receiverTransferTransferArn": "<transfer ARN>", // ARN of the receiver's
 transfer
        "transferBillSourceTransferArn": "<transfer ARN>", // ARN of the bill source's
 transfer
        "billTransferAccountId": "<account ID>", // 12-digit bill transfer account ID
        "billSourceAccountId": "<account ID>", // 12-digit bill source account ID
        "effectiveTimestamp": "<timestamp>", // Format: yyyy-MM-dd'T'HH:mm:ssZ
        "acceptedTimestamp": "<timestamp>" // Format: yyyy-MM-dd'T'HH:mm:ssZ
      }
    ],
    "directBillingGroupsDeleted": [
      {
        "billingGroupArn": "<billing group ARN>", // ARN of the deleted billing group
        "billSourceAccountId": "<account ID>", // 12-digit bill source account ID
        "transferId": "<transfer ID>", // associated transfer ID
        "deletedTimestamp": "<timestamp>" // Format: yyyy-MM-dd'T'HH:mm:ssZ
      }
    ],
    "indirectBillingGroupsDeleted": [
      {
        "billingGroupArn": "<billing group ARN>", // ARN of the deleted billing group
        "billTransferAccountId": "<account ID>", // 12-digit bill transfer account ID
        "billSourceAccountId": "<account ID>", // 12-digit bill source account ID
        "receiverTransferTransferId": "<transfer ID>", // receiver's transfer ID
        "transferBillSourceTransferId": "<transfer ID>", // bill source's transfer ID
        "deletedTimestamp": "<timestamp>" // Format: yyyy-MM-dd'T'HH:mm:ssZ
      }
    ]
  }
}
```

AWS Billing Conductor のコンプライアンス検証

サードパーティーの監査者は、複数のコンプライアンスプログラムの一環として AWS サービスのセキュリティと AWS コンプライアンスを評価します。 AWS Billing Conductor は AWS コンプライアンスプログラムの対象ではありません。

特定のコンプライアンスプログラムの対象となる AWS サービスのリストについては、「コンプライアンスAWS プログラムによる対象範囲内のサービスコンプライアンス」を参照してください。一般的な情報については、AWS 「 Compliance ProgramsAssurance」を参照してください。

を使用して、サードパーティーの監査レポートをダウンロードできます AWS Artifact。詳細については、「AWS Artifact でのレポートのダウンロード」を参照してください。

AWS Billing Conductor を使用する際のお客様のコンプライアンス責任は、お客様のデータの機密性、貴社のコンプライアンス目的、適用される法律および規制によって決まります。 は、コンプライアンスに役立つ以下のリソース AWS を提供します。

- 「セキュリティ＆コンプライアンスクイックリファレンスガイド」 – これらのデプロイガイドには、アーキテクチャ上の考慮事項の説明と、 AWSでセキュリティとコンプライアンスに重点を置いたベースライン環境をデプロイするための手順が記載されています。
- AWS コンプライアンスリソース – このワークブックとガイドのコレクションは、お客様の業界や地域に適用される場合があります。
- 「 デベロッパーガイド」の「ルールによるリソースの評価」 – この AWS Config サービスは、リソース設定が内部プラクティス、業界ガイドライン、および規制にどの程度準拠しているかを評価します。 AWS Config
- AWS Security Hub CSPM – この AWS サービスは、 内のセキュリティ状態を包括的に把握 AWS し、セキュリティ業界標準とベストプラクティスへの準拠を確認するのに役立ちます。

AWS Billing Conductor の耐障害性

AWS グローバルインフラストラクチャは、 AWS リージョンとアベイラビリティーゾーンを中心に構築されています。 AWS リージョンは、低レイテンシー、高スループット、高度に冗長なネットワークで接続された複数の物理的に分離されたアベイラビリティーゾーンを提供します。アベイラビリティーゾーンでは、ゾーン間で中断することなく自動的にフェールオーバーするアプリケーションとデータベースを設計および運用することができます。アベイラビリティーゾーンは、従来の単一または複数のデータセンターインフラストラクチャよりも可用性、フォールトトレランス、および拡張性が優れています。

AWS リージョンとアベイラビリティーゾーンの詳細については、AWS「グローバルインフラストラクチャ」を参照してください。

AWS Billing Conductor のインフラストラクチャセキュリティ

マネージドサービスとして、 は AWS グローバルネットワークセキュリティで保護されています。AWS セキュリティサービスと がインフラストラクチャ AWS を保護する方法については、AWS「 クラウドセキュリティ」を参照してください。インフラストラクチャセキュリティのベストプラクティスを使用して環境を AWS 設計するには、「Security Pillar AWS Well-Architected Framework」の「Infrastructure Protection」を参照してください。

AWS が発行した API コールを使用して、ネットワーク経由で にアクセスします。クライアントは以下をサポートする必要があります。

- Transport Layer Security (TLS)。TLS 1.2 が必須で、TLS 1.3 をお勧めします。
- DHE (楕円ディフィー・ヘルマン鍵共有) や ECDHE (楕円曲線ディフィー・ヘルマン鍵共有) などの完全前方秘匿性 (PFS) による暗号スイート。これらのモードは Java 7 以降など、ほとんどの最新システムでサポートされています。

インターフェイスエンドポイント (AWS PrivateLink) AWS Billing Conductor を使用した へのアクセス

を使用して AWS PrivateLink 、VPC と の間にプライベート接続を作成できます AWS Billing Conductor。インターネットゲートウェイ、NAT デバイス、VPN 接続、または Direct Connect 接続を使用せずに、VPC 内にあるかのように Billing Conductor にアクセスできます。VPC 内のインスタンスは、Billing Conductor にアクセスするためにパブリック IP アドレスを必要としません。

このプライベート接続を確立するには、 AWS PrivateLinkを利用したインターフェイスエンドポイントを作成します。インターフェイスエンドポイントに対して有効にする各サブネットにエンドポイントネットワークインターフェイスを作成します。これらは、Billing Conductor 宛てのトラフィックのエントリポイントとして機能するリクエスタ管理のネットワークインターフェイスです。

詳細については、「 AWS PrivateLink ガイド」の「Access AWS のサービス through AWS PrivateLink」を参照してください。

Billing Conductor に関する考慮事項

Billing Conductor のインターフェイスエンドポイントを設定する前に、「 AWS PrivateLink ガイド」の「考慮事項」を参照してください。

Billing Conductor は、インターフェイスエンドポイントを介したすべての API アクションの呼び出しをサポートしています。

VPC エンドポイントポリシーは Billing Conductor ではサポートされていません。デフォルトでは、インターフェイスエンドポイントを介して Billing Conductor へのフルアクセスが許可されます。または、セキュリティグループをエンドポイントネットワークインターフェイスに関連付けて、インターフェイスエンドポイントを介して Billing Conductor へのトラフィックを制御することもできます。

Billing Conductor のインターフェイスエンドポイントを作成する

Billing Conductor のインターフェイスエンドポイントは、Amazon VPC コンソールまたは AWS Command Line Interface () を使用して作成できますAWS CLI。詳細については、「AWS PrivateLink ガイド」の「インターフェイスエンドポイントを作成」を参照してください。

次のサービス名を使用して Billing Conductor のインターフェイスエンドポイントを作成します。

```
com.amazonaws.region.service-name
```

インターフェイスエンドポイントのプライベート DNS を有効にすると、デフォルトのリージョン DNS 名を使用して Billing Conductor に API リクエストを行うことができます。例えば、`service-name.us-east-1.amazonaws.com`。

インターフェイスエンドポイントのエンドポイントポリシーを作成する

エンドポイントポリシーは、インターフェイスエンドポイントにアタッチできる IAM リソースです。デフォルトのエンドポイントポリシーでは、インターフェイスエンドポイントを介して Billing Conductor へのフルアクセスを許可します。VPC から Billing Conductor に許可されるアクセスを制御するには、カスタムエンドポイントポリシーをインターフェイスエンドポイントにアタッチします。

エンドポイントポリシーは以下の情報を指定します。

- アクションを実行できるプリンシパル (AWS アカウント、IAM ユーザー、IAM ロール)。
- 実行可能なアクション。

- このアクションを実行できるリソース。

詳細については、AWS PrivateLink ガイドのControl access to services using endpoint policies (エンドポイントポリシーを使用してサービスへのアクセスをコントロールする)を参照してください。

例: Billing Conductor アクションの VPC エンドポイントポリシー

以下は、カスタムエンドポイントポリシーの例です。このポリシーをインターフェイスエンドポイントにアタッチすると、すべてのリソースのすべてのプリンシパルに対して、リストされている Billing Conductor アクションへのアクセスが許可されます。

```
{
   "Statement": [
      {
         "Principal": "*",
         "Effect": "Allow",
         "Action": "billingconductor:*",
         "Resource":"*"
      }
   ]
}
```

クォータと制限

次の表に、 AWS Billing Conductor 内のクォータと制限を示します。

クォータ

Billing Conductor をスタンドアロンサービスとして使用する

支払者アカウントごとの請求グループの数	5,000
請求グループごとのアカウント数	1,000
料金プランの数	5,000
料金設定ルールの数	50,000
料金プランに関連付けることができる料金設定ルールの数	500
料金設定ルールに関連付けることができる料金プランの数	1,000
カスタム明細項目の数	50,000
パーセンテージカスタム明細項目に関連付けられるソース値の数	100
フラットカスタム明細項目に関連付けられるパーセンテージカスタムの数	100
請求グループごとに明細項目フィルターを設定したカスタム明細項目の数	10
請求グループあたりの計算ルールとして「ITEMIZED」を設定したカスタム明細項目の数	5

Billing Conductor と請求転送の使用

請求書転送アカウントあたりの one-to-one の請求グループマッピングの数	請求転送アカウントが管理できる請求転送の数と同じ
請求ソースアカウントあたりの請求グループ数	1
請求グループごとのアカウント数	1,000
料金プランの数	5,000
料金設定ルールの数	50,000
料金プランに関連付けることができる料金設定ルールの数	500
料金設定ルールに関連付けることができる料金プランの数	1,000
カスタム明細項目の数	50,000
パーセンテージカスタム明細項目に関連付けられるソース値の数	100
フラットカスタム明細項目に関連付けられるパーセンテージカスタムの数	100

制限事項

次の表のその他の制約は、引き上げることができません。

Billing Conductor をスタンドアロンサービスとして使用する

請求グループ請求ビューあたりのコストと使用状況レポートの数	10
請求書転送アカウントの見積り数	請求転送アカウントが管理できる請求転送の数と同じ
請求グループ名	• 128 文字以内でなければなりません • space を含めることはできません

	• 特殊文字は使用できません
請求グループの説明	1,024 文字以内でなければなりません
料金プラン名	• 128 文字以内でなければなりません • space を含めることはできません • 特殊文字は使用できません
料金プランの説明	1,024 文字以内でなければなりません
カスタム明細項目の名前	• 128 文字以内でなければなりません • space を含めることはできません • 特殊文字は使用できません

Billing Conductor と請求転送の使用

請求書転送アカウントの見積り &CUR; の数	10
請求グループ名	• 128 文字以内でなければなりません • space を含めることはできません • 特殊文字は使用できません
請求グループの説明	1,024 文字以内でなければなりません
料金プラン名	• 128 文字以内でなければなりません • space を含めることはできません • 特殊文字は使用できません
料金プランの説明	1,024 文字以内でなければなりません
カスタム明細項目の名前	• 128 文字以内でなければなりません • space を含めることはできません • 特殊文字は使用できません

ドキュメント履歴

次の表に、 AWS Billing Conductor の今回のリリースのドキュメントを示します。

変更	説明	日付
請求転送の請求グループを自動的に作成するためのサポートを追加	請求転送の自動請求グループ作成設定を有効にして、 が新しい最終顧客ごとに間接請求転送請求グループ AWS Billing Conductor を自動的に作成できるようになりました。「2 レベル転送の請求グループの自動作成」を参照してください。`AWSBillingConductorReadOnlyAccess` ポリシーも更新しました。の AWS マネージドポリシーを参照してください AWS Billing Conductor。	2026 年 9 月 21 日
Amazon EventBridge と AWS User Notifications サポートを追加	Amazon EventBridge を使用して AWS Billing Conductor イベントを受信し、 AWS User Notifications を使用して通知を受信できるようになりました。「 での Amazon EventBridge AWS Billing Conductor の使用」および「 AWS User Notifications でのの使用 AWS Billing Conductor 」を参照してください。	2026 年 3 月 26 日
AWS 管理ポリシーのドキュメントを更新しました	`AWSBillingConductorFullAccess` ポリシーを更新しました。の AWS マネージドポリシーを参照	2025 年 11 月 19 日

	してください AWS Billing Conductor。	
AWS 管理ポリシーのドキュメントを更新しました	AWSBillingConductorFullAccess および AWSBillingConductorReadOnlyAccess ポリシーを更新しました。の AWS マネージドポリシーを参照してください AWS Billing Conductor。	2025 年 9 月 9 日
更新版	予約プランと Savings Plans は Billing Conductor と統合されています。「Analyzing Savings Plans, reservation coverage, and utilization reports」トピックを参照してください。	2024 年 10 月 10 日
更新版	「 とは AWS Billing Conductor 」トピックを更新しました。	2024 年 3 月 7 日
AWS 管理ポリシーのドキュメントを更新しました	をAWSBillingConductorReadOnlyAccess ポリシーGetBillingGroupCostReport に追加しました。の AWS マネージドポリシーを参照してください AWS Billing Conductor。	2024 年 2 月 8 日
マージンの概要に関するドキュメントを追加	請求グループのマージンの詳細 AWS のサービス を で表示できます。「請求グループあたりのマージンの分析」を参照してください。	2023 年 12 月 14 日

カスタム明細項目に関するドキュメントを追加	請求グループ内の特定のリンクされたアカウントにカスタム明細項目を適用できます。「請求グループごとのカスタム明細項目の作成」を参照してください。	2023 年 12 月 4 日
プライマリアカウントに関するドキュメントを追加しました	プライマリアカウントを選択することが、請求グループの見積りコストにどのように影響するかを理解します。「プライマリアカウントの参加日の重要性を理解する」を参照してください。	2023 年 10 月 26 日
カスタム明細項目フィルターのサポートを追加しました	カスタム明細項目に対して、明細項目フィルターを指定できるようになりました。詳細については、「割合料金のカスタム明細項目の作成」を参照してください。	2023 年 9 月 5 日
見積りコストに関するドキュメントを追加	以下のトピックを参照してください。 • AWS Cost Explorerでの見積りコストに関するアドホック分析の実施 • AWS のサービス 見積りコストをサポートする • IAM ポリシーの例: 見積りコストへのアクセスを拒否する	2023 年 8 月 22 日

自動アカウント関連付けのサポートが追加されました	請求グループの自動アカウント関連付けを有効にできるようになりました。詳細については、請求グループ、料金設定、およびカスタム明細項目の作成を参照してください。	2023 年 7 月 26 日
CSV ダウンロードサポートを追加	請求グループのマージン分析テーブルの CSV ファイルをダウンロードできます。詳細については、「請求グループごとのマージン分析」を参照してください。	2023 年 6 月 6 日
初回リリース	AWS Billing Conductor ユーザーガイドと API リファレンスの初回リリース。	2022 年 3 月 16 日

翻訳は機械翻訳により提供されています。提供された翻訳内容と英語版の間で齟齬、不一致または矛盾がある場合、英語版が優先します。